

(様式第10)

金大第2025-1100 号

令和 7 年 10 月 1 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人金沢大学長

和田 隆志

国立大学法人金沢大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒920-1192 石川県金沢市角間町
氏名	国立大学法人金沢大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

国立大学法人金沢大学附属病院
----------------

3 所在の場所

〒920-8641 石川県金沢市宝町13番1号
電話( 076 ) 265 - 2000

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

○	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科					有		
内科と組み合わせた診療科名等							
○	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科	○	4腎臓内科
	5神経内科	○	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
○	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			○	11リウマチ科
診療実績							
神経内科、内分泌内科、代謝内科で提供される医療は、他の診療科で提供している							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

## (2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科		2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
消化器外科、心臓外科、血管外科、内分泌外科で提供される医療は、他の診療科で提供している。							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

## (3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科		12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

## (4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

## (5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	内分泌・代謝内科	2	腫瘍内科	3	脳神経内科	4	形成外科	5	胃腸外科
6	肝臓・胆のう・膵臓・移植外科	7	腫瘍外科	8	病理診断科	9	リハビリテーション科	10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

## 5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
38	0	0	0	792	830

(単位: 床)

## 6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	400	113	483.6
歯科医師	9	12	18.1
薬剤師	56	1	56.7
保健師	0	0	0
助産師	24	0	24
看護師	891	7	895.3
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	3	0	0
管理栄養士	8	2	9.5

職種	員数
看護補助者	32
理学療法士	14
作業療法士	7
視能訓練士	7
義肢装具士	0
臨床工学士	20
栄養士	0
歯科技工士	1
診療放射線技師	46

職種	員数
診療エックス線技師	0
臨床検査技師	66
衛生検査技師	2
その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0
医療社会事業従事者	7
その他の技術員	19
事務職員	131
その他の職員	18

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

## 7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	67	眼科専門医	10
外科専門医	46	耳鼻咽喉科専門医	14
精神科専門医	10	放射線科専門医	31
小児科専門医	23	脳神経外科専門医	8
皮膚科専門医	9	整形外科専門医	22
泌尿器科専門医	17	麻酔科専門医	17
産婦人科専門医	14	救急科専門医	2
		合計	290

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

## 8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 吉崎 智一 任命年月日 令和 6 年 4 月 1 日

令和6年度から医療安全管理委員会の委員長として出席している。

## 9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	576.1 人	6.9 人	583 人
1日当たり平均外来患者数	1456.3 人	61.4 人	1517.7 人
1日当たり平均調剤数	1515.9		剤
必要医師数	144.825		人

必要歯科医師数	4	人
必要薬剤師数	20	人
必要(准)看護師数	344	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

#### 10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	462 ㎡	鉄筋コンクリート	病床数	22 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	347 ㎡	病床数	27 床	
	[移動式の場合]	台数	17 台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	73 ㎡			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	523 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	免疫発光測定装置、全自動免疫測定装置、ディスクリット方式臨床化学自動分析装置、検体前処理装置、蛋白分画電気泳動分析装置、免疫比濁測定装置、全自動電気泳動分析装置、迅速糖尿病生理機能検査装置、迅速糖化診断生理機能検査装置、自動浸透圧分析装置、乾式臨床化学分析装置、自動化学分析装置、大腸生理機能予備検査装置、総合生理機能検査前輸血支援システム、赤血球沈降速度測定装置、汎用血液ガス分析装置、血液検査システム、呼気中13CO2分析装置、臨床検査支援システム、恒温器、血液検査装置、心疾患関連マーカー自動測定器システム、遠心機、蒸留水製造装置、尿化学分析装置、顕微鏡、精子特性分析機、マルチカラーフローサイトメトリー		
細菌検査室	113 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	血液培養装置、同定・薬剤感受性パネル自動測定装置、全自動細菌検査システム、クリーンベンチ、サーマルサイ클ー、結核菌迅速診断装置、マイクロチップ電気泳動システム、嫌気ワークステーション、全自動遺伝子解析システム、遺伝子解析装置、恒温器、炭酸ガス培養装置、遠心機、乾熱滅菌器、高圧滅菌器、純水製造装置、顕微鏡、質量分析装置		
病理検査室	108 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自動免疫染色装置、自動固定包埋装置、自動染色装置		
病理解剖室	134 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	無影灯、解剖台、計量器		
研究室	626 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	血液ガス分析装置、マイクロプレートリーダー、超低温フリーザー、バイオハザード対象用キャビネット、遠心分離機、インキュベーター、高速タンパクブロッティングシステム、オートクレーブ、クリーンベンチ、顕微鏡、蛍光実体顕微鏡、薬用冷凍冷蔵庫、低温冷凍庫、ドラフト		
講義室	267 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	1 室	収容定員	390 人
図書室	166 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	2 室	蔵書数	4,400 冊程度



- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	87.4	%	逆紹介率	98.6	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		12,363		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		15,084		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,000		人
	D: 初診の患者の数		15,283		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
田尻 和人	富山大学附属病院 医療安全管理部	○	医療安全管理部副部長として医療安全に関する業務に従事しているため	無	1
麻生 小夜	金沢あおば法律事務所		弁護士として法律に関する専門知識に基づき、業務を行っているため	無	1
和田 真由美	血液疾患の患者の会 「萌の会」		「萌の会」の代表として活動しており、医療を受ける立場から意見を述べるができるため	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。  
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)  
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法  本院のWebサイトに掲載している。	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数 (人)
	0人
先進医療の種類合計数	0
取扱い患者数の合計(人)	0人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示  
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
腹腔鏡下センチネルリンパ節生検	0人
術後のカペシタビン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法	0人
アモキシシリン、ホスホマイシン及びメトロニダゾール経口投与並びに同種糞便微生物叢移植の併用療法	0人
術前のゲムシタビン静脈内投与及びナブパクリタキセル静脈内投与の併用療法	2人
先進医療の種類の合計数	4
取扱い患者数の合計(人)	2人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	0
取扱い患者数の合計(人)	0

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	61	自己免疫性溶血性貧血	1
2	筋萎縮性側索硬化症	12	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	5
3	脊髄性筋萎縮症	3	63	特発性血小板減少性紫斑病	35
4	原発性側索硬化症	2	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
5	進行性核上性麻痺	16	65	原発性免疫不全症候群	18
6	パーキンソン病	83	66	IgA 腎症	20
7	大脳皮質基底核変性症	4	67	多発性嚢胞腎	18
8	ハンチントン病	1	68	黄色靱帯骨化症	16
9	神経有棘赤血球症	0	69	後縦靱帯骨化症	66
10	シャルコー・マリー・トウス病	2	70	広範脊柱管狭窄症	3
11	重症筋無力症	82	71	特発性大腿骨頭壊死症	43
12	先天性筋無力症候群	0	72	下垂体性ADH分泌異常症	16
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	51	73	下垂体性TSH分泌亢進症	2
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	17	74	下垂体性PRL分泌亢進症	5
15	封入体筋炎	3	75	クッシング病	8
16	クロウ・深瀬症候群	1	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
17	多系統萎縮症	4	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	24
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	16	78	下垂体前葉機能低下症	63
19	ライソゾーム病	14	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	5
20	副腎白質ジストロフィー	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
21	ミトコンドリア病	4	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	8
22	もやもや病	29	82	先天性副腎低形成症	0
23	プリオン病	0	83	アジソン病	2
24	亜急性硬化性全脳炎	1	84	サルコイドーシス	89
25	進行性多巣性白質脳症	0	85	特発性間質性肺炎	46
26	HTLV-1関連脊髄症	0	86	肺動脈性肺高血圧症	22
27	特発性基底核石灰化症	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
28	全身性アミロイドーシス	57	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	33
29	ウルリッヒ病	0	89	リンパ脈管筋腫症	4
30	遠位型ミオパチー	0	90	網膜色素変性症	6
31	ベスレムミオパチー	0	91	バッド・キアリ症候群	2
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	92	特発性門脈圧亢進症	3
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	93	原発性胆汁性胆管炎 旧病名(原発性胆汁性肝硬変)	54
34	神経線維腫症	17	94	原発性硬化性胆管炎	12
35	天疱瘡	17	95	自己免疫性肝炎	31
36	表皮水疱症	2	96	クローン病	150
37	膿疱性乾癬(汎発型)	10	97	潰瘍性大腸炎	160
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	98	好酸球性消化管疾患	3
39	中毒性表皮壊死症	1	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
40	高安動脈炎	20	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
41	巨細胞性動脈炎	13	101	腸管神経節細胞僅少症	0
42	結節性多発動脈炎	19	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
43	顕微鏡的多発血管炎	26	103	CFC症候群	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	10	104	コステロ症候群	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	15	105	チャージ症候群	1
46	悪性関節リウマチ	13	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
47	バージャー病	2	107	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	7
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	4	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	255	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	163	110	ブラウ症候群	0
51	全身性強皮症	330	111	先天性ミオパチー	2
52	混合性結合組織病	35	112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0
53	シェーグレン症候群	56	113	筋ジストロフィー	3
54	成人スチル病	26	114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	5	115	遺伝性周期性四肢麻痺	0
56	ベーチェット病	58	116	アトピー性脊髄炎	0
57	特発性拡張型心筋症	35	117	脊髄空洞症	1
58	肥大型心筋症	21	118	脊髄髄膜瘤	1
59	拘束型心筋症	0	119	アイザックス症候群	0
60	再生不良性貧血	57	120	遺伝性ジストニア	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
121	神経フェリチン症	0	181	クルーゾン症候群	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	182	アペール症候群	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	183	ファイファー症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	185	コフィン・シリス症候群	0
126	ペリー症候群	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	187	歌舞伎症候群	0
128	ビッカーstaff脳幹脳炎	0	188	多脾症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	189	無脾症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	190	鰓耳腎症候群	0
131	アレキサnder病	0	191	ウェルナー症候群	1
132	先天性核上性球麻痺	0	192	コケイン症候群	0
133	メビウス症候群	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	1
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	194	ソトス症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
136	片側巨脳症	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	197	1p36欠失症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	198	4p欠失症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	199	5p欠失症候群	0
140	ドラベ症候群	1	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	201	アンジェルマン症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	202	スミス・マギニス症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	203	22q11.2欠失症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	204	エマヌエル症候群	0
145	ウエスト症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
146	大田原症候群	1	206	脆弱X症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	1	207	総動脈幹遺残症	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	208	修正大血管転位症	1
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	209	完全大血管転位症	0
150	環状20番染色体症候群	0	210	単心室症	2
151	ラスムッセン脳炎	0	211	左心低形成症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	212	三尖弁閉鎖症	2
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	215	ファロー四徴症	1
156	レット症候群	0	216	両大血管右室起始症	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	217	エプスタイン病	0
158	結節性硬化症	3	218	アルポート症候群	0
159	色素性乾皮症	0	219	ギャロウェイ・モフト症候群	0
160	先天性魚鱗癬	1	220	急速進行性糸球体腎炎	2
161	家族性良性慢性天疱瘡	0	221	抗糸球体基底膜腎炎	0
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	20	222	一次性ネフローゼ症候群	28
163	特発性後天性全身性無汗症	6	223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0
164	眼皮膚白皮症	0	224	紫斑病性腎炎	3
165	肥厚性皮膚骨膜症	0	225	先天性腎性尿崩症	0
166	弾性線維性仮性黄色腫	2	226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	4
167	マルファン症候群	9	227	オスラー病	4
168	エーラス・ダンロス症候群	6	228	閉塞性細気管支炎	0
169	メンケス病	0	229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	3
170	オクシピタル・ホーン症候群	0	230	肺胞低換気症候群	0
171	ウィルソン病	5	231	$\alpha$ 1-アンチトリプシン欠乏症	0
172	低ホスファターゼ症	1	232	カーニー複合	0
173	VATER症候群	0	233	ウォルフラム症候群	0
174	那須・ハコラ病	0	234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0
175	ウィーバー症候群	0	235	副甲状腺機能低下症	0
176	コフィン・ローリー症候群	0	236	偽性副甲状腺機能低下症	0
177	ジュベール症候群関連疾患 旧病名(有馬症候群)	0	237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0
178	モワット・ウィルソン症候群	0	238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	6
179	ウィリアムズ症候群	1	239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0
180	ATR-X症候群	0	240	フェニルケトン尿症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
241	高チロシン血症1型	0	293	総排泄腔遺残	0
242	高チロシン血症2型	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
243	高チロシン血症3型	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
244	メープルシロップ尿症	0	296	胆道閉鎖症	1
245	プロピオン酸血症	0	297	アラジール症候群	0
246	メチルマロン酸血症	0	298	遺伝性腓炎	0
247	イソ吉草酸血症	0	299	嚢胞性線維症	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	300	IgG4関連疾患	23
249	グルタル酸血症1型	0	301	黄斑ジストロフィー	0
250	グルタル酸血症2型	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
251	尿素サイクル異常症	1	303	アッシャー症候群	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
254	ポルフィリン症	1	306	好酸球性副鼻腔炎	37
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	307	カナバン病	0
256	筋型糖原病	0	308	進行性白質脳症	0
257	肝型糖原病	0	309	進行性ミオクロームステんかん	0
258	ガラクトースー1ーリン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	310	先天異常症候群	0
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	311	先天性三尖弁狭窄症	0
260	シトステロール血症	2	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
261	タンジール病	1	313	先天性肺静脈狭窄症	0
262	原発性高カイロミクロン血症	1	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
263	脳腱黄色腫症	1	315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)／L MX1B関連腎症	1
264	無βリポタンパク血症	0	316	カルニチン回路異常症	0
265	脂肪萎縮症	3	317	三頭酵素欠損症	0
266	家族性地中海熱	2	318	シトリン欠損症	0
267	高IgD症候群	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
268	中條・西村症候群	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	1	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
270	慢性再発性多発性骨髄炎	0	322	βーケトチオラーゼ欠損症	0
271	強直性脊椎炎	27	323	芳香族Lーアミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
272	進行性骨化性線維異形成症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
274	骨形成不全症	0	326	大理石骨病	0
275	タナトフォリック骨異形成症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	2
276	軟骨無形成症	1	328	前眼部形成異常	1
277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0	329	無虹彩症	1
278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0	330	先天性気管狭窄症／先天性声門下狭窄症 旧病名(先天性気管狭窄症)	0
279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	1	331	特発性多中心性キャッスルマン病	7
280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
282	先天性赤血球形成異常性貧血	0	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
283	後天性赤芽球癆	1	335	ネフロン癆	0
284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0	336	家族性低βリポタンパク血症1 (ホモ接合体)	0
285	ファンconi貧血	0	337	ホモシスチン尿症	0
286	遺伝性鉄芽球性貧血	0	338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0
287	エプスタイン症候群	0	339	MECP2重複症候群	0
288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0	340	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	2
289	クローンカイト・カナダ症候群	0	341	TRPV4異常症	0
290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0			
291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸	0			
292	総排泄腔外反症	0			

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	137
合計患者数(人)	2839



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医療DX推進体制整備加算	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科外来診療感染対策加算4	・ハイリスク分娩管理加算
・歯科診療特別対応連携加算	・術後疼痛管理チーム加算
・特定機能病院入院基本料(一般病棟)	・後発医薬品使用体制加算1
・特定機能病院入院基本料(精神病棟)	・バイオ後続品使用体制加算
・救急医療管理加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・超急性期脳卒中加算	・薬剤業務向上加算
・診療録管理体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算2
・医師事務作業補助体制加算1 25対1	・データ提出加算
・急性期看護補助体制加算 25対1(看護補助者5割未満), 夜間100対1急性期看護補助体制加算, 夜間看護体制加算, 看護補助体制充実加算2	・入退院支援加算1
・看護職員夜間配置加算 12対1	・入院時支援加算
・療養環境加算	・地域連携診療計画加算
・重症者等療養環境特別加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・無菌治療室管理加算1, 2	・精神疾患診療体制加算
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・精神科急性期医師配置加算
・緩和ケア診療加算	・排尿自立支援加算
・精神科応急入院施設管理加算	・地域医療体制確保加算
・精神病棟入院時医学管理加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・精神科身体合併症管理加算	・特定集中治療室管理料2
・精神科リエゾンチーム加算	・特定集中治療室管理料の注1に規定する算定上限日数に関する基準
・摂食障害入院医療管理加算	・新生児特定集中治療室管理料2
・栄養サポートチーム加算	・総合周産期特定集中治療室管理料 1. 母体・胎児集中治療室管理料
・医療安全対策加算1	・新生児治療回復室入院医療管理料
・感染対策向上加算1	・小児入院医療管理料2
・感染対策向上加算の注2に規定する指導強化加算	・小児入院医療管理料の注5に掲げる無菌治療管理加算1
・患者サポート体制充実加算	・小児入院医療管理料の注5に掲げる無菌治療管理加算2
・重症患者初期支援充実加算	・早期栄養介入管理加算
・報告書管理体制加算	・早期離床・リハビリテーション加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来栄養食事指導料(注3に掲げるがん専門管理栄養士が栄養食事指導を行う場合)	・がん治療連携計画策定料
・遠隔モニタリング加算(ペースメーカー指導管理料)	・外来排尿自立指導料
・糖尿病合併症管理料	・肝炎インターフェロン治療計画料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・プログラム医療機器等指導管理料
・がん患者指導管理料イ	・高血圧症治療補助アプリを用いる場合の届出
・がん患者指導管理料ロ	・薬剤管理指導料
・がん患者指導管理料ハ	・医薬品安全性情報等管理体制加算
・外来緩和ケア管理料	・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・医療機器安全管理料1
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・医療機器安全管理料2
・造血幹細胞移植後患者指導管理料	・医療機器安全管理料(歯科)
・糖尿病透析予防指導管理料	・歯科治療時医療管理料
・高度腎機能障害患者指導加算	・救急搬送診療料の注4に規定する重症患者搬送加算
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・救急患者連携搬送料
・婦人科特定疾患治療管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・腎代替療法指導管理料	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・一般不妊治療管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
・二次性骨折予防継続管理料1	・皮下連続式グルコース測定
・二次性骨折予防継続管理料3	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・下肢創傷処置管理料	・持続血糖測定器加算
・院内トリアージ実施料	・遺伝学的検査の注1に規定する施設基準
・外来放射線照射診療料	・染色体検査の注2に規定する基準
・外来腫瘍化学療法診療料1	・骨髓微小残存病変量測定
・連携充実加算(外来腫瘍化学療法診療料)	・BRCA1／2遺伝子検査
・外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算	・腫瘍細胞を検体とするもの
・ニコチン依存症管理料	・血液を検体とするもの

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・がんゲノムプロファイリング検査	・経気管支凍結生検法
・先天性代謝異常症検査	・口腔細菌定量検査
・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体	・有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼能力検査
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)	・有床義歯咀嚼機能検査2の口及び咬合圧検査
・抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・画像診断管理加算4
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・遠隔画像診断
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS－CoV－2核酸検出を含まないもの)	・CT撮影及びMRI撮影
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	・冠動脈CT撮影加算
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・血流予備量比コンピューター断層撮影
・国際標準検査管理加算	・心臓MRI撮影加算
・遺伝カウンセリング加算	・乳房MRI撮影加算
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・小児鎮静下MRI撮影加算
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・頭部MRI撮影加算
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・全身MRI撮影加算
・胎児心エコー法	・肝エラストグラフィ加算
・ヘッドアップティルト試験	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・人工臓器検査、人工臓器療法	・外来化学療法加算1
・長期継続頭蓋内脳波検査	・無菌製剤処理料
・神経学的検査	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・補聴器適合検査	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・黄斑局所網膜電図	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・全視野精密網膜電図	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・ロービジョン検査判断料	・がん患者リハビリテーション料
・小児食物アレルギー負荷検査	・歯科口腔リハビリテーション料2
・内服・点滴誘発試験	・経頭蓋磁気刺激療法
・経頸静脈的肝生検	・通院・在宅精神療法の注8に規定する療養生活継続支援加算

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・通院・在宅精神療法の注11に規定する早期診療体制充実加算	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・救急患者精神科継続支援料	・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
・認知療法・認知行動療法1	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・精神科作業療法	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・角結膜悪性腫瘍切除術
・医療保護入院等診療料	・角膜移植術(内皮移植加算)
・硬膜外自家血注入	・羊膜移植術
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・人工腎臓 慢性維持透析を行った場合1	・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))
・導入期加算3及び腎代替療法実績加算	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・網膜再建術
・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・人工中耳植込術
・ストーマ合併症加算	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)
・歯科技工士連携加算2	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・CAD／CAM冠及びCAD／CAMインレー	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・歯科技工加算1及び2	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・顎関節人工関節全置換術(歯科)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・椎間板内酵素注入療法	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・乳癌センチネルリンパ節生検加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・緊急穿頭血腫除去術	・乳癌センチネルリンパ節生検加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極拔去術
・乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・胸腔鏡下拡大乳腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・補助人工心臓
・気管支バルブ留置術	・経皮的下肢動脈形成術
・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・胸腔鏡下弁形成術	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・胸腔鏡下弁置換術	・胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)	・体外衝撃波胆石破碎術
・経皮的僧帽弁クリップ術	・腹腔鏡下肝切除術
・不整脈手術左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)	・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)	・移植用部分肝採取術(生体)(腹腔鏡によるもの)
・経皮的中隔心筋焼灼術	・生体部分肝移植術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・同種死体肝移植術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・体外衝撃波臍石破碎術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下臍腫瘍摘出術	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・腹腔鏡下臍体尾部腫瘍切除術	・体外式膜型人工肺管理料
・腹腔鏡下臍体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・腹腔鏡下臍中央切除術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
・腹腔鏡下臍頭部腫瘍切除術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・腹腔鏡下臍頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・輸血管理料Ⅱ
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・コーディネート体制充実加算
・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・同種クリオプレシピレート作成術
・腹腔鏡下副腎摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髓質腫瘍摘出術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・麻酔管理料(Ⅰ)
・腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	・麻酔管理料(Ⅱ)
・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・周術期薬剤管理加算
・同種死体腎移植術	・放射線治療専任加算
・生体腎移植術	・外来放射線治療加算
・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・一回線量増加加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・人工尿道括約筋植込・置換術	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・精巣温存手術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・定位放射線治療
・腹腔鏡下仙骨腔固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・画像誘導密封小線源治療加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・病理診断管理加算2

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

[illegible]



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・LDLアフェレシス療法	・
・流産検体を用いた染色体検査	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	2回 / 週	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	20
	剖検率(%)	8.0

)1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こ  
(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
認知機能からみたこころの健康へのアプローチ：予防とレジリエンスのために	松井 三枝	GS教育系	17,317,027	補委	日本学術振興会
【アミロイドと異種アミロイド】混合型認知症におけるメタアグリゲート形成と毒性発現	小野 賢二郎	医学系	7,800,000	補委	日本学術振興会
肝微小環境の構造理解に基づく新たな代謝性肝疾患治療の確立	本多 政夫	保健学系	5,000,000	補委	日本学術振興会
膠芽腫医療に抜本的変革をもたらす血液バイオマーカーの分子基盤の構築	中田 光俊	医学系	3,320,000	補委	日本学術振興会
ナトリウム共役能動輸送型糖輸送体を標的としたセラノスティクス薬剤の開発	小林 正和	保健学系	2,680,000	補委	日本学術振興会
深層学習による画像情報を主軸にした包括的な肺機能診断法の確立	田中 利恵	AIホスピタル・マクロシグナルダイナミクス研究開発センター(保)	1,700,000	補委	日本学術振興会
原発性アルドステロン症における新治療戦略―安全かつ高奏功な根本治療の開発	絹谷 清剛	医学系	2,100,000	補委	日本学術振興会
診断閾下を含む自閉スペクトラム症の生物学的検討	菊知 充	医学系	3,300,000	補委	日本学術振興会
新規モニタリング法の確立によるB型肝炎ウイルスを完全駆除する薬物の探索と同定	島上 哲朗	医学系	5,500,000	補委	日本学術振興会
EGFR変異肺がんを共存変異で層別化する個別化医療の理論的基盤を形成する研究	矢野 聖二	医学系	3,200,000	補委	日本学術振興会
セレノプロテインPタンパク質とmRNAの機能理解に基づく糖尿病病態の解明	篁 俊成	医学系	4,100,000	補委	日本学術振興会
上咽頭癌におけるEBVと宿主細胞相互作用の分子機構解明と新規治療法の開発	吉崎 智一	医学系	3,000,000	補委	日本学術振興会
感情制御を妨害するemotion differentiationの心理生理学的メカニズムの解明	吉村 晋平	人文学系	600,000	補委	日本学術振興会
空間的1細胞遺伝子発現解析を駆使した癌幹細胞による間質細胞リプログラミングの解明	山下 太郎	医学系	5,000,000	補委	日本学術振興会
視空間認知ネットワークの損傷に対する構造的・機能的代償機構の解明	中嶋 理帆	保健学系	3,200,000	補委	日本学術振興会
ドラッグリポジショニングによる分子標的薬耐性腎細胞癌に対する克服薬の探索	牧野 友幸	医学系	470,000	補委	日本学術振興会
ハイリスクアプローチ基盤の地域支援者向け自殺予防教育プログラムの開発	田中 浩二	保健学系	490,000	補委	日本学術振興会
自閉スペクトラム症児の言語特性の神経基盤の検討・支援法に関する研究	吉村 優子	学校教育系	1,100,000	補委	日本学術振興会
遺伝性血栓症の病因(オミックス解析)と病態の解明	森下 英理子	保健学系	800,000	補委	日本学術振興会
高速原子間力顕微鏡を用いた凝集タンパクのクロス・シーディング効果の時空間的観察	小野 賢二郎	医学系	1,300,000	補委	日本学術振興会
高リスク神経芽腫に対する超効果的・効率的核医学治療法の開発	萱野 大樹	医学系	1,200,000	補委	日本学術振興会
内視鏡医を対象とした線量計一体型放射線防護眼鏡の開発	松原 孝祐	保健学系	600,000	補委	日本学術振興会

拡散MRIと位相コントラスト法を組み合わせた新たな脳血流量定量イメージングの確立	大野 直樹	保健学系	600,000	(補委)	日本学術振興会
新生児へモクロマトーシスの原因となるアロ抗体同定とIVIG治療の理論的基盤の確立	谷内江 昭宏	その他部局等	300,000	(補委)	日本学術振興会
全身性強皮症におけるB細胞の包括的解析	松下 貴史	医学系	400,000	(補委)	日本学術振興会
大血管手術後の脊髄虚血に関するバイオマーカーの測定と探索	竹村 博文	医学系	350,000	(補委)	日本学術振興会
敗血症性心筋障害におけるエンドセリンA受容体拮抗薬の効果と機序の解明	岡島 正樹	医学系	600,000	(補委)	日本学術振興会
脊椎腫瘍に対する凍結融解壊死治療の安全性の確立および脊髄保護対策	出村 諭	医学系	600,000	(補委)	日本学術振興会
糖尿病による骨癒合遅延に対する糖化ストレス解消療法の開発	松原 秀憲	医薬保健学総合研究科	600,000	(補委)	日本学術振興会
脂肪由来幹細胞を用いた骨関節感染症治療用バイオインプラントの開発	林 克洋	保健学系	1,200,000	(補委)	日本学術振興会
KRAS活性を介したダブルネガティブ去勢抵抗性前立腺癌進展機構の解明	泉 浩二	医学系	600,000	(補委)	日本学術振興会
FLASH放射線治療を想定したゲル線量計ボースを用いた線量分布検証法の開発	武村 哲浩	保健学系	600,000	(補委)	日本学術振興会
唾液分泌制御を目的とした経皮的唾液腺局所作用型外用剤の開発	石田 奈津子	薬学系	1,000,000	(補委)	日本学術振興会
経皮吸収型製剤の皮膚透過に与える薬剤性皮膚機能変動の影響と網羅的メカニズムの解明	嶋田 努	薬学系	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
線溶病態に着目したDICにおける多発血栓形成プロセスの解明とその治療応用	菅 幸生	薬学系	1,200,000	(補委)	日本学術振興会
糸球体門部小血管増生に着目した糖尿病性腎臓病の進展抑制機序の解明	清水 美保	医学系	700,000	(補委)	日本学術振興会
経頭蓋直流電気刺激はGABA神経が作るネットワークの特性をどう変えるのか？	廣澤 徹	子どものこころの発達研究センター	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
自己免疫性骨髄不全症患者iPS細胞を用いた疾患モデルの創出と選択的造血制御の解明	片桐 孝和	保健学系	880,000	(補委)	日本学術振興会
NAFLDを伴った糖尿病に対する薬物療法の研究:連続肝生検を用いて	竹下 有美枝	医学系	1,200,000	(補委)	日本学術振興会
移乗介助時の腰背部リスクに基づきVRを介した移乗教示の効果	柴田 克之	保健学系	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
骨腫瘍切除後の腫瘍骨移植における高圧処理技術の応用-腫瘍学的安全性の検証-	横川 文彬	医薬保健学総合研究科	550,000	(補委)	日本学術振興会
自然免疫受容体を介した脂肪由来幹細胞の活性化とバイオフィルム感染症への応用	加畑 多文	医学系	900,000	(補委)	日本学術振興会
卵巣がんの発生初期の免疫微小環境に着目した腹膜播種機構の解明と新規治療法の開発	安彦 郁	医学系	1,600,000	(補委)	日本学術振興会
耳小骨連鎖異常症例に対する簡易非侵襲診断機器の開発	杉本 寿史	医学系	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
包括的高度慢性下肢虚血 (CLTI) ハイリスク患者の重症化防止振動ケアプログラムの確立	大桑 麻由美	保健学系	520,000	(補委)	日本学術振興会
環境エンリッチメントの脳ダイナミクスと行動学習障害の回復に関する基礎研究	菊池 ゆひ	保健学系	150,000	(補委)	日本学術振興会
末梢神経の経皮的ノイズ電気刺激による手の運動調節能への効果と筋・脳活動の解明	西村 誠次	保健学系	370,000	(補委)	日本学術振興会

ゼブラフィッシュ視神経損傷後の修復カスケードの分子機構	杉谷 加代	保健学系	1,100,000	補委	日本学術振興会
膠芽腫のアクアポリン1阻害による腫瘍進展制御機序の解明と阻害剤の臨床への展開	大石 正博	附属病院	662,223	補委	日本学術振興会
B型肝炎ウイルスRNAを制御する宿主因子の機能解析	村居 和寿	保健学系	1,100,000	補委	日本学術振興会
脂肪由来幹細胞を用いた末梢神経の損傷に対する新たな治療方法の開発	多田 薫	保健学系	400,000	補委	日本学術振興会
非ウイルス性肝細胞癌の分子病理学的特徴を反映するイメージングバイオマーカーの探索	小林 聡	医学系	1,200,000	補委	日本学術振興会
NGFR陽性細胞による心臓リモデリング制御機構の解明	薄井 莊一郎	医学系	600,000	補委	日本学術振興会
スマートバンドを用いた肥大型心筋症患者における運動強度の評価と心予後との関連解析	野村 章洋	融合科学系	1,150,000	補委	日本学術振興会
遺伝性心筋症/不整脈に關与する病的バリエーションの正確な決定と新規疾患発症機序の解明	林 研至	保健学系	1,100,000	補委	日本学術振興会
マクロファージによる上皮分化誘導機構と肺線維化形成機序の解明	渡辺 知志	医薬保健学総合研究科	1,900,000	補委	日本学術振興会
腎臓病の、D-アミノ酸による腸管と腎臓を標的とする新規治療法の開発	岩田 恭宜	医学系	600,000	補委	日本学術振興会
胃癌腹膜播種の新規治療創出に向けたCAFsにおけるMHCクラスIIの生物学的意義の解析	木下 淳	医学系	700,000	補委	日本学術振興会
Claudin18.2を基軸とした食道発癌機構の解明と新規治療戦略の開発	稲木 紀幸	医学系	800,000	補委	日本学術振興会
骨軟部肉腫における腫瘍免疫状態の解明と新規免疫療法の開発	三輪 真嗣	医学系	1,000,000	補委	日本学術振興会
子宮筋腫の増大における免疫寛容の役割の解明	飯塚 崇	医学系	950,000	補委	日本学術振興会
癌関連線維芽細胞由来エクソソームを介した口腔扁平上皮癌進展メカニズムの解明	加藤 広禄	医学系	1,700,000	補委	日本学術振興会
小児院外心停止に対する現場蘇生中止基準の開発研究	後藤 由和	医学系	1,300,000	補委	日本学術振興会
産後の母親のメンタルヘルスと日常生活習慣との機能的関連を探索	毎田 佳子	保健学系	1,550,000	補委	日本学術振興会
リハビリテーション技術確立のための行動柔軟性の促進に関わる神経回路活動の解析	米田 貢	保健学系	2,700,000	補委	日本学術振興会
骨格筋再生における速筋線維再形成に関する研究	田中 正二	保健学系	1,400,000	補委	日本学術振興会
関節運動、脱神経が関節拘縮に及ぼす影響の組織学的検討	松崎 太郎	保健学系	1,500,000	補委	日本学術振興会
脳手術と脳科学の変革を狙った機能シフトを担う脳浅層神経ネットワークの解析	中田 光俊	医学系	2,500,000	補委	日本学術振興会
がん特異的グルタミリシスを利用したミトコンドリア標的セラノスティクス薬剤の開発	小林 正和	保健学系	1,450,000	補委	日本学術振興会
胸部X線動画検査による4次元肺機能評価への挑戦	田中 利恵	AIホスピタル・マクロシグナルダイナミクス研究開発センター(保)	800,000	補委	日本学術振興会
改変エクソソームを用いた臓器移植後の革新的免疫抑制法の開発	八木 真太郎	医学系	1,600,000	補委	日本学術振興会
脳機能がシフトしうる範囲の解明による新規リハビリテーション指針策定	中嶋 理帆	保健学系	2,000,000	補委	日本学術振興会

mind-blankingを中核としたうつに伴う集中困難の新たな精神病理モデルの構築	吉村 晋平	人文学系	300,000	補委	日本学術振興会
EBウイルス潜伏感染細胞におけるウイルス複製誘導機構の解明と上咽頭癌新規治療法開発	吉崎 智一	医学系	1,000,000	補委	日本学術振興会
日本人2型糖尿病患者のためのEmpowerment尺度の開発	堀口 智美	保健学系	600,000	補委	日本学術振興会
複合免疫治療の効果および免疫関連有害事象に関わる末梢血バイオマーカーの開発	丹保 裕一	医学系	1,300,000	補委	日本学術振興会
肺腺癌から小細胞癌への形質転換モデル作製・解析と小細胞肺癌に対する治療戦略の探索	木場 隼人	医薬保健学総合研究科	800,000	補委	日本学術振興会
血液遺伝子発現解析を用いた膀胱癌化学療法効果予測ツールの開発と宿主免疫応答の解明	宮澤 正樹	附属病院	2,400,000	補委	日本学術振興会
SUMO化阻害を基軸としたMYC関連悪性腫瘍に対する新規治療法開発	小谷 浩	がん進展制御研究所	800,000	補委	日本学術振興会
細菌増殖活性を反映した細菌感染症の画像診断法および核医学治療法の開発	水谷 明日香	保健学系	1,200,000	補委	日本学術振興会
マウスモデルを用いた慢性GVHDの新規予防法・病勢マーカーの確立	藤木 俊寛	医学系	1,100,000	補委	日本学術振興会
再生不良性貧血患者のBCOR/BCORL1変異造血幹細胞における免疫逃避機序の解明	井美 達也	医学系	1,100,000	補委	日本学術振興会
免疫担当細胞のシングルセル解析による炎症性発癌機構の解明	武居 亮平	医学系	1,300,000	補委	日本学術振興会
異常トロンビンのトロンボモジュリンまたはPAR-1を介した血栓形成メカニズムの解明	長屋 聡美	保健学系	2,000,000	補委	日本学術振興会
膀胱腫瘍内線維化に着目した術前化学療法効果予測に関する画像biomarkerの確立	小森 隆弘	医学系	1,900,000	補委	日本学術振興会
免疫調節薬に誘導された抗癌精巣抗体が多発性骨髄腫制御に果たす役割の解明と臨床応用	鎧高 健志	医学系	1,400,000	補委	日本学術振興会
人種間の他者理解脳内ネットワーク解析と覚醒下手術への応用	中田 光俊	医学系	2,300,000	補委	日本学術振興会
褐色・白色脂肪組織におけるセレノプロテインPおよびそのmRNA標的分子の機能解析	篁 俊成	医学系	1,200,000	補委	日本学術振興会
診断閾値下自閉スペクトラム症の遺伝要因および神経発達過程の解明	塩田 友果	医学系	5,100,000	補委	日本学術振興会
診断閾下を含む自閉スペクトラム症の生物学的検討	菊知 充	医学系	659,708	補委	日本学術振興会
新規モニタリング法の確立によるB型肝炎ウイルスを完全駆除する薬物の探索と同定	島上 哲朗	医学系	3,102,200	補委	日本学術振興会
地域住民コホート研究を用いた先進的ゲノム解析による心不全超精密個別化医療開発	多田 隼人	附属病院	4,000,000	補委	日本学術振興会
肝細胞癌におけるT細胞の質と動態を決定する分子機序の解明	水腰 英四郎	附属病院	4,700,000	補委	日本学術振興会
ウイルス性頭頸部癌の内分泌療法の適応を目指したエストロゲンシグナルの包括的解析	近藤 悟	附属病院	4,300,000	補委	日本学術振興会
超低出生体重児におけるインスリン療法時の輸液セットへの薬剤吸着と対策の検討	下川 頌子	附属病院	470,000	補委	日本学術振興会
MBL非産生緑膿菌におけるインテグロンと薬剤耐性化への影響の解明	大谷 初美	附属病院	470,000	補委	日本学術振興会
機械学習による術中運動誘発電位モニタリングでのAnesthetic Fade鑑別モデルの構築	油野 岳夫	附属病院	330,000	補委	日本学術振興会

ウェアラブル筋電計を用いた顎変形症における睡眠時ブラキシズムの縦断研究	中田 晶子	附属病院	410,000	補委	日本学術振興会
顎変形症患者における超音波エラストグラフィを用いた咬筋機能の評価法の開発	寺上 貴子	附属病院	460,000	補委	日本学術振興会
HALを用いた人工膝関節全置換術患者への機能改善効果とその効果メカニズムの解明	渡部 貴也	附属病院	350,000	補委	日本学術振興会
認知症における新規病態解明ならびにバイオマーカー開発	中出 祐介	附属病院	200,000	補委	日本学術振興会
液体窒素を用いた腫瘍処理骨再建術における処理骨周囲膜組織の機能解明	浅野 陽平	附属病院	200,000	補委	日本学術振興会
EBウイルスによるDNAメチル化誘導機構の解明と新規上咽頭癌治療法の開発	近藤 悟	附属病院	600,000	補委	日本学術振興会
足部内在筋強化トレーニングの骨格筋活動と前十字靭帯損傷危険因子改善効果の検証	高田 泰史	附属病院	100,000	補委	日本学術振興会
神経原性腫瘍モデルラットの新規構築と検証	米澤 宏隆	附属病院	860,000	補委	日本学術振興会
膵癌高危険群における膵液中マイクロRNAとエピゲノム解析による早期診断法の確立	大坪 公士郎	附属病院	800,000	補委	日本学術振興会
肝腫瘍におけるvessel co-optionのイメージバイオマーカーの開発	小坂 一斗	附属病院	500,000	補委	日本学術振興会
小児多系統炎症性症候群の免疫学的解析とバイオマーカー探索	松田 裕介	附属病院	1,000,000	補委	日本学術振興会
炎症性腸疾患の遺伝学的病型診断と個別化治療に関する研究	山田 真也	附属病院	500,000	補委	日本学術振興会
T細胞受容体遺伝子と免疫チェックポイント阻害薬による肝がん新規治療開発	中河 秀俊	附属病院	600,000	補委	日本学術振興会
軽鎖沈着症を生じるM蛋白の構造的・機能的“質”の解明	西岡 亮	附属病院	950,000	補委	日本学術振興会
膵癌個別化治療のための血小板を利用した新たなバイオマーカーの確立	牧野 勇	附属病院	300,000	補委	日本学術振興会
ビタミンB2を用いた生体組織の血流診断法の開発	齋藤 大輔	附属病院	450,000	補委	日本学術振興会
DICにおける炎症と凝固の相互作用と血管作動性物質の制御	朝倉 英策	附属病院	1,000,000	補委	日本学術振興会
代用音声による人工呼吸器装着患者とのコミュニケーション促進	佐藤 康次	附属病院	300,000	補委	日本学術振興会
脳動脈瘤破裂に関わるRAGEの役割についての検証	上出 智也	附属病院	700,000	補委	日本学術振興会
人工関節周囲感染予防における理想的な希釈ポビドンヨード術中洗浄液の使用法の確立	井上 大輔	附属病院	1,000,000	補委	日本学術振興会
マウス胎盤ラビリンス層に出現する新規GLAST陽性細胞の機能解析	鏡 京介	附属病院	800,000	補委	日本学術振興会
XRを活用した前方視的(リアルタイム)食事指導AIアプリ開発と検証	米谷 充弘	附属病院	950,000	補委	日本学術振興会
ADL指標を組み込んだ薬物体内動態個人間変動予測の精緻化	崔 吉道	附属病院	320,000	補委	日本学術振興会
分子標的治療誘導性転移の新規分子機構の解明と予防法の確立	南條 成輝	附属病院	900,000	補委	日本学術振興会
Nrf-2/HO-1系を利用した抗炎症増強による全身型若年性特発性関節炎の新規治療法の開発	横山 忠史	附属病院	1,100,000	補委	日本学術振興会

肝癌幹細胞とCXCR2陽性細胞の細胞間相互作用の解析と新規治療法開発	丹尾 幸樹	附属病院	1,200,000	補委	日本学術振興会
心筋生検検体を用いたシングル核RNA-Seqと空間的解析による肥大型心筋症の病態解明	吉田 昌平	附属病院	1,250,000	補委	日本学術振興会
「線維化持続環境」の制御による腎臓病トータルマネージメントの基盤確立	坂井 宣彦	附属病院	850,000	補委	日本学術振興会
補体経路に着目したIgG4関連腎臓病の病態解析と特異的治療開発	原 怜史	附属病院	1,500,000	補委	日本学術振興会
造血不全におけるminiscule PNH顆粒球の意義に関する検討	山崎 宏人	附属病院	1,100,000	補委	日本学術振興会
モデルマウスを用いたIgG4関連疾患における喫煙の影響の解明と疾病予防的指針の確立	水島 伊知郎	附属病院	700,000	補委	日本学術振興会
システロール血症におけるVUSの病原性評価スキームの確立に関する研究	岡田 寛史	附属病院	1,200,000	補委	日本学術振興会
転移性骨腫瘍モデルを用いた局所療法(凍結、焼灼、放射線)のがん免疫増強効果の検証	加藤 仁志	附属病院	1,000,000	補委	日本学術振興会
乳癌患者におけるタモキシフェンによる子宮内膜着床能向上と卵巣保護作用の解析	山崎 玲奈	附属病院	900,000	補委	日本学術振興会
高度な2型炎症を有するIgG4関連疾患モデルマウスにおける嗅球と海馬の解析	上野 貴雄	附属病院	900,000	補委	日本学術振興会
アイバンクに依存しない人工角膜内皮を用いた角膜内皮移植術に関する基礎的臨床的研究	小林 顕	附属病院	300,000	補委	日本学術振興会
新生児拡大マスカリーニング検査における患者家族の心理社会的影響の解析	岡島 道子	附属病院	100,000	補委	日本学術振興会
関節軟骨の廃用性萎縮に対する理学療法による治療効果の解明	高橋 郁文	附属病院	1,200,000	補委	日本学術振興会
腹膜透析排液中オートタキシン濃度測定による腹膜機能評価と予後予測	堀越 慶輔	附属病院	700,000	補委	日本学術振興会
統合失調症の作業記憶ネットワークにおける神経活動依存性遺伝子の発現解析	坪本 真	附属病院	1,100,000	補委	日本学術振興会
自閉症児の感情認知タスクにおける脳機能ネットワークの特性解明	亀谷 仁郁	附属病院	1,900,000	補委	日本学術振興会
神経芽腫治療の挑戦: MIBG療法後の免疫応答解明とアプスコパル効果による新規治療戦略	若林 大志	附属病院	1,200,000	補委	日本学術振興会
腸内細菌が潰瘍性大腸炎治療抵抗性を生む機序の解明と新たなバイオマーカーの開発	飯田 宗穂	附属病院	750,000	補委	日本学術振興会
胃食道逆流症の内視鏡治療によるPPI/PCAB内服終了が腸内細菌叢を含む生体を与える影響	鷹取 元	附属病院	2,700,000	補委	日本学術振興会
網羅的トランスクリプトーム解析による冠動脈プラーク不安定化予測のブレークスルー	坂田 憲治	附属病院	1,000,000	補委	日本学術振興会
腎虚血再灌流障害におけるミトコンドリア抗ウイルスシグナル伝達(MAVS)蛋白の役割	南 太一朗	附属病院	1,800,000	補委	日本学術振興会
抗ネオ・セルフ抗体を利用した再生不良性貧血自己抗原の同定	細川 晃平	附属病院	1,800,000	補委	日本学術振興会
オキシトシンシグナルに着目した非アルコール性脂肪肝炎治療の開発へ向けた基盤研究	後藤 久典	附属病院	1,200,000	補委	日本学術振興会
キララミノ酸分析による胆道癌の新規病態解明とバイオマーカーの開発	中沼 伸一	附属病院	900,000	補委	日本学術振興会
変形性膝関節症に対する新規結合組織修復薬の開発	中瀬 順介	附属病院	1,670,000	補委	日本学術振興会



腫瘍随伴マクロファージの機能解析と膀胱癌治療への応用	野原 隆弘	附属病院	800,000	補委	日本学術振興会
尿路上皮癌の免疫チェックポイント分子をターゲットとした新規治療戦略	八重樫 洋	附属病院	1,000,000	補委	日本学術振興会
食事による概日リズム調節と子宮蠕動運動-新たな産科婦人科疾患予防法の探索-	細野 隆	附属病院	800,000	補委	日本学術振興会
概日リズムの乱れに伴う生殖・周産期疾患の発生機序解明とプレコンセプションケア開発	折坂 俊介	附属病院	800,000	補委	日本学術振興会
高齢者における夏季の環境温度と腎機能の変動に関する検討	宮城 栄重	附属病院	650,000	補委	日本学術振興会
皮下脂肪間質細胞の拍動心筋分化機構の解明と心筋再生治療への応用	高島 伸一郎	附属病院	2,100,000	補委	日本学術振興会
3D脊椎腫瘍モデルを用いた新規脊椎保護デバイスによる凍結治療シミュレーション	有藤 賢明	附属病院	1,400,000	補委	日本学術振興会
アルツハイマー病ハイリスク地域住民の海馬容積に注目した防御的生活習慣因子の探索	小松 潤史	附属病院	400,000	補委	日本学術振興会
非侵襲的に記録された皮膚交感神経活動の心房細動治療における役割の解明	草山 隆志	附属病院	700,000	補委	日本学術振興会
上咽頭癌における新規バイオマーカーの開発と臨床応用	平井 信行	附属病院	700,000	補委	日本学術振興会
地域脳健診での認知症発症と口腔機能の関連解析	石宮 舞	附属病院	300,000	補委	日本学術振興会
West症候群の早期診断を目指したオンライン動画診断支援システムの確立	黒田 文人	附属病院	900,000	補委	日本学術振興会
新型コロナウイルス感染症流行によるステイホームがロコモに与える影響	黒川 由貴(田中 日)	附属病院	100,000	補委	日本学術振興会
MRIを用いた総合的肝硬度評価法の確立	小野田 農	附属病院	500,000	補委	日本学術振興会
心筋梗塞後抑うつ状態におけるシグマ1受容体定量可視化による心脳連関の解明	森 博史	附属病院	1,100,000	補委	日本学術振興会
ディーブラーニング技術を使用した上腹部CT検査における低線量プロトコルの開発	峰広 香織	附属病院	800,000	補委	日本学術振興会
MAPキナーゼ経路の制御による全身性エリテマトーデスの新規治療法の開発	宇佐美 雅章	附属病院	800,000	補委	日本学術振興会
非アルコール性脂肪肝炎における局所環境動態に基づく間葉系幹細胞治療の機序解明	関 晃裕	附属病院	800,000	補委	日本学術振興会
糖尿病性腎症における腸内細菌を介した腎障害機序の可視化	大島 恵	附属病院	700,000	補委	日本学術振興会
アルドステロン産生副腎過形成の成因となる脂肪組織由来miRNAの探索と機能解析	中野 雄二郎	附属病院	900,000	補委	日本学術振興会
膵癌における三次リンパ様構造(TLS)の役割解明と治療への応用	高田 智司	附属病院	1,000,000	補委	日本学術振興会
近視性緑内障病態解明のための眼位変化時の視神経乳頭構造および眼血流の解析	宇田川 さち子	附属病院	600,000	補委	日本学術振興会
NASHを増悪させる肥満者特有の腸内細菌と細菌遺伝子の同定	林 智之	附属病院	700,000	補委	日本学術振興会
地域住民コホートをを用いた先進的ゲノム解析による大動脈弁狭窄症の予防戦略開発	竹治 泰明	附属病院	1,000,000	補委	日本学術振興会
OCTN1を介した腸内最近関連物質の移動によるSLE進展機序の解明	中川 詩織	附属病院	900,000	補委	日本学術振興会

治療抵抗性前立腺癌に対するコーヒーゲルペン作用機序の解明と新規治療法の開発	岩本 大旭	附属病院	1,800,000	補委	日本学術振興会
肝間質細胞―癌細胞の細胞間相互作用に着目した前立腺癌進展機構の解明	内藤 伶奈人	附属病院	1,800,000	補委	日本学術振興会
上咽頭癌におけるファルネシル化を介した、エクソソーム形成機構の解明	小林 英士	附属病院	1,000,000	補委	日本学術振興会
胎盤-新生児間連関を基軸とした新規新生児低血糖症治療ターゲットの探索	藤田 有美	附属病院	2,300,000	補委	日本学術振興会
自閉スペクトラム症をもつ児童の共同注意の改善は、知能をも改善するか	佐野 滋彦	附属病院	600,000	補委	日本学術振興会
自閉スペクトラム症の感覚特性と神経振動の関わり 脳ネットワーク解析による検討	宮岸 良彰	附属病院	400,000	補委	日本学術振興会
抗甲状腺薬内服下におけるバセドウ病内用療法 の次世代治療戦略の検証	廣正 智	附属病院	1,400,000	補委	日本学術振興会
早期膀胱癌検出のためのディープラーニング技術 応用Abbreviated MRIプロトコルの確立	戸島 史仁	附属病院	800,000	補委	日本学術振興会
ピロリン酸集積体積を用いた心アミロイドーシスの 予後予測法と治療効果判定法の確立	渡辺 悟	附属病院	1,400,000	補委	日本学術振興会
逃避造血クローンの種類に基づく再生不良性貧血 の治療戦略と免疫病態の検討	材木 義隆	附属病院	1,900,000	補委	日本学術振興会
胃がん悪性化機構におけるFOXO3の機能の解 明および新規治療の開発	辻 敏克	附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会
大腸がんオルガノイドを用いた周術期治療戦略の 構築	山本 大輔	附属病院	1,400,000	補委	日本学術振興会
抑制性インターニューロンへの分化と移動制御に おけるSlitrk3の役割解明	高田 翔	附属病院	1,500,000	補委	日本学術振興会
髄膜に生じる難治性放射線障害に対する脂肪由来 幹細胞治療の有効性	清水 貴樹	附属病院	1,400,000	補委	日本学術振興会
新規胚シグナル分子を利用したがん細胞の休止 機構の解析	神田 龍人	附属病院	2,100,000	補委	日本学術振興会
アンドロゲンによる子宮体癌抑制機構の解明と新 規治療法の開発	茅橋 佳代	附属病院	1,200,000	補委	日本学術振興会
造血幹細胞移植患者における移植後心不全リス ク層別化の試み	吉田 信也	附属病院	700,000	補委	日本学術振興会
MSI-high大腸がんオルガノイドを用いたWntリガ ンド阻害薬の治療効果	山本 大輔	附属病院	1,100,000	補委	日本学術振興会
KIM-1に着目したループス腎炎の新規病態メカニ ズム解明	迫 恵輔	附属病院	1,100,000	補委	日本学術振興会
医療機関で製造されたPET製剤を他の医療機関 へ運搬して安全に使用するための基準策定のため の研究	絹谷 清剛	医学系	2,318,000	補委	厚生労働省
慢性活動性EBウイルス病と類縁疾患のレジストリ ・バイオバンク運用体制の拡充と診療連携基盤の 確立	和田 泰三	医学系	150,000	補委	厚生労働省
認知症の有病率に影響を与える因子の解明のため の調査研究	小野 賢二郎	医学系	1,000,000	補委	厚生労働省
環境中における薬剤耐性微生物及び抗微生物剤 の調査法等の確立のための研究	金森 肇	医学系	1,500,000	補委	厚生労働省
ネットワーク社会における地域の特性に応じた肝 疾患診療連携体制構築に資する研究	金子 周一	医薬保健学総合研究科	7,693,000	補委	厚生労働省
放射線診療の発展に対応する放射線防護の基 準策定のための研究	松原 孝祐	保健学系	200,000	補委	厚生労働省

全国規模の肝炎ウイルス感染状況の把握及びウイルス性肝炎 elimination に向けた方策の確立に資する疫学研究	島上 哲朗	医学系	1,000,000	補委	厚生労働省
アミロイドーシスに関する調査研究	小野 賢二郎	医学系	200,000	補委	厚生労働省
原発性免疫不全症候群の全国診療体制確立、移行医療体制構築、診療ガイドライン確立に関する研究	和田 泰三	医学系	1,000,000	補委	厚生労働省
認知症の遠隔医療およびケア提供を促進するための研究	小野 賢二郎	医学系	1,500,000	補委	厚生労働省
難治性腎障害に関する調査研究	和田 隆志	その他部局等	300,000	補委	厚生労働省
放射線療法の提供体制構築に資する研究	絹谷 清剛	医学系	200,000	補委	厚生労働省
効率的でドナーの負担軽減に資する末梢血幹細胞採取法の確立と非血縁者間末梢血幹細胞移植の治療成績向上のための研究	宮本 敏浩	医学系	150,000	補委	厚生労働省
自己炎症性疾患とその類縁疾患における、移行期医療を含めた診療体制整備、患者登録推進、全国疫学調査に基づく診療ガイドライン構築に関する研究	和田 泰三	医学系	600,000	補委	厚生労働省
特発性大腿骨頭壊死症の確定診断と重症度判定の向上に資する大規模多施設研究	加畑 多文	医学系	100,000	補委	厚生労働省
強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドライン・疾患レジストリに関する研究	松下 貴史	医学系	180,000	補委	厚生労働省
小児から成人期発症遺伝性QT延長症候群とその類縁疾患の突然死予防に関する研究	林 研至	保健学系	100,000	補委	厚生労働省
特発性心筋症の診断・ゲノム情報利活用に関する調査研究	藤野 陽	保健学系	300,000	補委	厚生労働省
血液凝固異常症等に関する研究	森下 英理子	保健学系	16,930,000	補委	厚生労働省
神経免疫疾患領域における難病の医療水準と患者のQOL向上に資する研究	吉川 弘明	保健管理センター	800,000	補委	厚生労働省
肝炎ウイルス検査受検率の向上及び受診へ円滑につなげる方策の確立に資する研究	島上 哲朗	医学系	400,000	補委	厚生労働省
指標等を活用した地域の実情に応じた肝炎対策均てん化の促進に資する研究	島上 哲朗	医学系	3,000,000	補委	厚生労働省
パーソナルヘルスコードを活用した診療(オンライン診療中心とした)における行動変容に関する研究	米田 隆	融合科学系	4,894,000	補委	厚生労働省
副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	米田 隆	融合科学系	200,000	補委	厚生労働省
原発性脂質異常症に関する調査研究	多田 隼人	附属病院	5,700,000	補委	厚生労働省
自己免疫性出血症診療の「均てん化」のための実態調査と「総合的」診療指針の作成	朝倉 英策	附属病院	500,000	補委	厚生労働省
難病の克服に向けた研究推進と医療向上を図るための戦略的統括研究	湯浅 貴博	附属病院	500,000	補委	厚生労働省
オールジャパン体制によるIgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	高比良 雅之	附属病院	800,000	補委	厚生労働省
オールジャパン体制によるIgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	井上 大	附属病院	500,000	補委	厚生労働省
オールジャパン体制によるIgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	水島 伊知郎	附属病院	1,000,000	補委	厚生労働省
特発性造血障害に関する調査研究	山崎 宏人	附属病院	500,000	補委	厚生労働省

脊柱靱帯骨化症に関する調査研究	加藤 仁志	附属病院	250,000	補 委	厚生労働省
患者との双方向的協調に基づく先天異常症候群の自然歴の収集と recontact 可能なシステムの構築	渡邊 淳	附属病院	650,000	補 委	厚生労働省
前眼部難病の診療ガイドライン作成および普及・啓発の研究	小林 顕	附属病院	500,000	補 委	厚生労働省

計 225件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Miyabi Miura, Michiko Nishino, Kazunori Kawaguchi 他	消化器内科	Programmed cell death-1 is involved with peripheral blood immune cell profiles in patients with hepatitis C virus antiviral therapy	PLoS One. 2024 May 23;19(5):e0299424. (オンライン)	Original Article
2	Nio K, Shimakami T, Terashima T, 他	消化器内科	Serum laminin $\gamma$ 2 monomer as a predictive biomarker for hepatocellular carcinoma in patients with chronic hepatitis B virus infection: a retrospective cohort study.	Sci Rep;14(1):25395.2024 Oct 25.	Others
3	Terashima T, Yamashita T, Arai K, 他	消化器内科	Comprehensive genomic profiling for advanced hepatocellular carcinoma in clinical practice.	Hepatol Int;19(1):212-221.2025 Feb.	Others
4	Terashima T, Nio K, Koshikawa N, 他	消化器内科	Serum laminin $\gamma$ 2 monomer as a novel diagnostic and prognostic marker for pancreatic ductal adenocarcinoma.	BJC Rep;3(1):2. 2025 Jan 14.	Others
5	Miyazawa M, Yanagi M, Chiba T, 他	消化器内科	Metachronous Pancreatic Cancer with Pancreaticobiliary Maljunction Diagnosed Five Years after Cholecystectomy for Gallbladder Cancer, in Which Follow-up Imaging was. Possible Until the Onset of Cancer: A Case Report and Review of the Literature.	Intern Med. 2025 Jan 15.	Others
6	Miyazawa M, Yanagi M, Nishitani M, 他	消化器内科	Don't be overconfident about the "cover" of a covered self-expandable metal stent in endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy.	Endoscopy. 2025 Dec;57(S 01):E32-E33. 2025 Dec.	Others
7	Terashima T, Kido H, Takata N, 他	消化器内科	Phase II Study of Atezolizumab and Bevacizumab Combination Therapy for Patients with Advanced Hepatocellular Carcinoma Previously Treated with Lenvatinib.	Cancers (Basel);17(2):278.2025 Jan 16.	Others
8	Morita K, Nakagawa H, Yamashita T.	消化器内科	Elusive Diagnosis: Liver Tumor Emerging After Early Pancreatic Cancer Surgery.	Gastroenterology:S0016-5085(25)00413-5. 2025 Feb 21.	Others
9	Nishitani M, Okada H, Nio K, 他	消化器内科	Mint3 as a Molecular Target Activated in the Early Stage of Hepatocarcinogenesis.	Int J Mol Sci;26(4):1430.2025 Feb 8	Others
10	Miyazawa M, Nishitani M, Orita N, 他	消化器内科	Successful biliary decompression for multiple biliary obstructions by bridging stenting using the partial stent-in-stent method via endoscopic ultrasound-guided. Hepaticogastrostomy.	Endoscopy. 2025 Dec;57(S 01):E261-E262. Epub 2025 Mar 25.	Others
11	Miyazawa M, Nagai K, Nishitani M, 他	消化器内科	Transpapillary stenting by the rendezvous technique using a novel device delivery guide sheath via percutaneous transhepatic biliary drainage route for hilar biliary obstruction.	Endoscopy. 2025 Dec;57(S 01):E265-E266. Epub 2025 Mar 25.	Others

12	Goto H, Tanimura I, Nakano Y, et al.	内分泌・代謝内科	Thyroid Arteriovenous Malformation in Hereditary Hemorrhagic Telangiectasia: Insights on Successful Noninvasive Imaging	JCEM Case Rep. 2024 Aug 12 (オンライン); 2: luae138	Case report
13	Mai X, Kometani M, Kato T, Aiga K, 他	内分泌・代謝内科	Clinical comparison and genetic analysis in pheochromocytoma with primary aldosteronism.	Endocr J. 2025 Feb 3;72(2):193–203. doi: 10.1507/endocrj.EJ24–0150. Epub 2024 Nov 26.	Original Article
14	Hisanori Goto, Yasuhiko Yamamoto, Hiromasa Tsujiguchi, et al.	内分泌・代謝内科	Oxytocin Receptor Polymorphism Is Associated With Sleep Apnea Symptoms	J Endocr Soc. 2024 Nov 26 (オンライン); 9: bvae198.	Original Article
15	Aono D, Kato T, Morisawa A, et al.	内分泌・代謝内科	Adrenocortical carcinoma with circulating tumor DNA analysis at post-operative recurrence: a case report with review of literature	Endocr J. 2025 Mar 3; 72: 325–332	Original Article
16	Ryo Nishioka , Takayoshi Ueno , Dai Inoue 他	腎臓・リウマチ膠原病内科	A case of IgG4-related dacryoadenitis and sialoadenitis remitted by dupilumab monotherapy.	Rheumatology (Oxford). 63(6):e188–e189, 2024 May.	Case report
17	Naoki Yamamoto , Norihiko Sakai , Daichi Kaikoi 他	腎臓・リウマチ膠原病内科	Cholesterol Crystal Embolism: Autopsy-proven Gastrointestinal Lesions, Pancreatitis, and End-stage Kidney Disease Which Developed after Undergoing Selective Abdominal Angiography.	Intern Med. 63(24):3325–3331, 2024 Dec.	Case report
18	Takeshi Zoshima , Tomohisa Baba , Kimihiko Nakatani 他	腎臓・リウマチ膠原病内科	The CCL2–CCR2 axis determines whether glomerular endocapillary hypercellularity or wire-loop lesions develop through glomerular macrophage and neutrophil infiltration in lupus nephritis.	J Pathol. 264(2):174–185, 2024 Oct.	Original Article
19	Shunsuke Tsuge , Hiroshi Fujii , Mami Tamai 他	腎臓・リウマチ膠原病内科	Factors related to elevated serum immunoglobulin G4 (IgG4) levels in a Japanese general population.	Arthritis Res Ther. 26(1):156, 2024 Sep.	Original Article
20	Hoang Thuy Linh , Megumi Oshima , Keisuke Sako 他	腎臓・リウマチ膠原病内科	Identification of circulating microbial DNA and its association with kidney function in patients with diabetic kidney disease.	Nephrology (Carlton). 29(12):909–916, 2024 Dec.	Original Article
21	Miho Shimizu , Kengo Furuichi , Tadashi Toyama 他	腎臓・リウマチ膠原病内科	Kidney lesions and risk of cardiovascular events in biopsy-proven diabetic kidney disease with type 2 diabetes.	Clin Exp Nephrol. 29(3):376–386, 2025 Mar.	Original Article
22	Hisayuki Ogura , Tadashi Toyama , Hikaru Samuta 他	腎臓・リウマチ膠原病内科	Relationship between kidney function and healthy life expectancy: A historical cohort study.	BMC Nephrol. 26(1):21, 2025 Jan.	Original Article
23	Hoang Thuy Linh , Yusuke Nakade , Takashi Wada 他	腎臓・リウマチ膠原病内科	The Potential Mechanism of D-Amino Acids – Mitochondria Axis in the Progression of Diabetic Kidney Disease.	Kidney Int Rep. 10(2):343–354, 2024 Nov.	Review
24	Hiroyuki Kawahara , Satoshi Hara , Noriko Iwaki 他	腎臓・リウマチ膠原病内科	Systemic sclerosis presenting TAFRO syndrome-like manifestations including renal glomerular microangiopathy: a case report and literature review.	Immunol Med. 2025 Mar 21:1–10. doi: 10.1080/25785826.2025.2481675. Online ahead of print.	Case report

25	Ryo Hara , Satoshi Watanabe , Nanao Terada 他	呼吸器内科	The Lung as a site for the generation of anti-MDA5 antibody in clinically amyopathic dermatomyositis	Rheumatology(Oxford).2024 Dec 1;63(12):e336–e338	Original Article
26	Tanaka S, Matsubayashi R, Tamori S, et al.	呼吸器内科	Rapidly worsening lung adenocarcinoma due to diffusely spreading lymphangitic carcinomatosis: A case report	Clinical case reports 12:e9494 2024Oct	Case report
27	Terada N, Koba H, Nanjo S,et al.	呼吸器内科	EGFR-V834L combined with L858R mutation reduced afatinib sensitivity and associated to early recurrence in lung cancer.	Transl Lung Cancer Res 13(11):3067–82 2024.Nov	Original Article
28	Tambo Y, Sone T, Nishi K, et al.	呼吸器内科	Five-year efficacy and safety of pembrolizumab as first-line treatment in patients with non-small cell lung cancer with PD-L1 tumor proportion score ≥50 %: A multicenter observational study	Lung Cancer :201:108422. 2025 Mar	Original Article
29	Tada H, Kojima N, Kawashiri MA, et al.	循環器内科	The first Japanese case with familial combined hypolipidemia without any complications caused by loss-of function variants in ANGPTL3: Case report	Heliyon. 2024 Apr 21;10(8):e29924	Case report
30	Tada H, Okada H, Kawashiri MA, et al.	循環器内科	Intensive Combination LDL-Lowering Therapy in a Patient With Homozygous Familial Hypercholesterolemia	JACC Case Rep. 2024 May 12;29(12):102367	Case report
31	Tada H, Takamura M	循環器内科	Toward personalized medicine in patients with familial hypercholesterolemia	Atherosclerosis. 2024 Oct;397:118522	Others
32	Takeji Y, Tada H, Takamura M,et al.	循環器内科	Prevalence and Clinical Characteristics of Familial Hypercholesterolemia in Patients with Acute Coronary Syndrome according to the Current Japanese Guidelines: Insight from the EXPLORE-J study	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis. 2025 Jan 1;32(1):23–33.	Original Article
33	Nakajima K, Nakata T, Doi T, et al.	循環器内科	Cardiac sympathetic activity and lethal arrhythmic events: insight into bell-shaped relationship between 123I-meta-iodobenzylguanidine activity and event rates	EJNMMI Res. 2024 Jul 21;14(1):67	Original Article
34	Takeji Y, Tada H, Taniguchi T,et al.	循環器内科	Current Management and Therapy of Severe Aortic Stenosis and Future Perspective.	J Atheroscler Thromb. 2024 Oct 1;31(10):1353–1364. doi: 10.5551/jat.RV22023. Epub 2024 Aug 8.	Review
35	Tsuda T, Hayashi K, Kato T, Kusayama T, et al.	循環器内科	Effects of Longitudinal Changes in Anemia Status on Clinical Outcomes in Patients With Non-Valvular Atrial Fibrillation – Analysis From the Hokuriku-Plus AF Registry.	Circ J. 2025 Jan 24;89(2):164–173. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0132. Epub 2024 Aug 27	Original Article
36	Takeji Y, Taniguchi T, Morimoto T, et al.	循環器内科	Availability of transcatheter aortic valve implantation across hospitals and differences in strategies and clinical outcomes in patients with severe aortic stenosis	Cardiovascular Intervention and Therapeutics. 2025 Jan;40(1):152–163.	Original Article
37	Yoshida S, Tada H, Goten C, Okada H,et al.	循環器内科	Comprehensive Genetic Testing for Coexisting Marfan and Loeys-Dietz Syndromes in Hereditary Thoracic Aortic Disease.	JACC Case Rep. 2024 Dec 4;29(23):102731. doi: 10.1016/j.jaccas.2024.102731. eCollection 2024 Dec 4.	Case report



38	Takashima S, Usui S, Matsuura S, et al.	循環器内科	Bone marrow-derived NGFR-positive dendritic cells regulate arterial remodeling.	.Am J Physiol Cell Physiol. 2025 Feb 1;328(2):C414–C428. doi: 10.1152/ajpcell.00665.2024. Epub 2025 Jan 2	Original Article
39	Tada H, Okada H, Yoshida S, et al.	循環器内科	Impact of Genetic Testing and Sex Differences among Patients with Familial Hypercholesterolemia: The Hokuriku-plus Familial Hypercholesterolemia Registry Study	J Atheroscler Thromb. 2024 Dec 28 (オンライン)	Original Article
40	Nakagawa Y, Kusayama T, Tamai S,et al.	循環器内科	Association between skin sympathetic nerve activity and electrocardiogram alterations after subarachnoid hemorrhage.	Physiol Rep. 2025 Jan;13(1):e70202. doi: 10.14814/phy2.70202.	Original Article
41	Tada H, Kojima N, Yamagami K, et al.	循環器内科	Association Between Lipoprotein (a) Levels and Coronary Artery Disease (CAD) Among Patients With or Without CAD Family History	J Lipid Atheroscler. 2025 Jan;14(1):120–127	Original Article
42	Nakagawa Y, Kusayama T, Morita M, et al.	循環器内科	Effects of Pulmonary Vein Isolation for Atrial Fibrillation on Skin Sympathetic Nerve Activity in Association with Left Atrial Remodeling.	J Cardiovasc Dev Dis. 2025 Mar 30;12(4):123. doi: 10.3390/jcdd12040123.	Original Article
43	Shinya Yamada, Hidesaku Asakura.	血液内科	How We Interpret Thrombosis with Thrombocytopenia Syndrome?	International Journal of Molecular Sciences 25(9):4956, 2024 May.	Review
44	Shinya Yamada, Kazuya Sakai, Masayuki Kubo 他	血液内科	Excessive cleavage of von Willebrand factor multimers by ADAMTS13 may predict the progression of transplant-associated thrombotic microangiopathy.	Research and Practive on Thrombosis and Haemostasis 8(5):102517. 2024 Jul.	Original Article
45	Shinya Yamada, Toshihiro Miyamoto, Hidesaku Asakura.	血液内科	Distinguishing hyperfibrinolysis from enhanced-fibrinolytic-type disseminated intravascular coagulation.	Research and Practive on Thrombosis and Haemostasis 8(7):102574. 2024 Sep.	Letter
46	Akihiro Nishiyama, Shigeki Sato, Hiroyuki Sakaguchi 他	腫瘍内科	Case report: Navigating treatment pathways for cardiac intimal sarcoma with PDGFR $\beta$ N666K mutation.	Frontiers in Oncology 14:1362347 2024 Apr.	Case report
47	Hiroshi Kotani, Hiroko Oshima, Justin C Boucher 他	腫瘍内科	Dual inhibition of SUMOylation and MEK conquers MYC-expressing KRAS-mutant cancers by accumulating DNA damage.	Journal of Biomedical Science 31(1):68 2024 Jul.	Original Article
48	Akihiro Nishiyama, Shigeki Sato, Hiroyuki Sakaguchi 他	腫瘍内科	Challenges in the treatment of BRAF K601E-mutated lung carcinoma: a case report of rapid response and resistance to dabrafenib and trametinib.	Frontiers in Oncology 14:1374594 2024 Jul.	Case report
49	Hiroyuki Sakaguchi, Shigeki Nanjo, Shigeki Sato 他	腫瘍内科	Effectiveness of Additional Immunosuppressive Drugs for Corticosteroid-refractory Immune Checkpoint Inhibitor-induced Myocarditis: Two Case Reports.	Internal Medicine 64(8):1205–1210 2024 Sep.	Case report
50	Hiroshi Kotani, Tomoyoshi Yamano, Justin C Boucher 他	腫瘍内科	Comprehensive antitumor immune response boosted by dual inhibition of SUMOylation and MEK in MYC-expressing KRAS-mutant cancers.	Experimental Hematology & Oncology 13(1):94 2024 Sep.	Original Article

51	Akihiro Nishiyama, Shigeki Sato, Hiroyuki Sakaguchi 他	腫瘍内科	Pembrolizumab efficacy in a tumor mutation burden-high glioblastoma patient: A case study and implications for precision oncology.	Cancer Science 116(1):271-276 2024 Oct.	Case report
52	Koushiro Ohtsubo, Kunio Miyake, Shigeki Sato 他	腫瘍内科	Analysis of Methylation of Tumor-suppressive miRNAs and KRAS/TP53 Mutations in Pancreatic Juice.	Anticancer Res 44(12):5253-5261 2024 Dec.	Original Article
53	Koushiro Ohtsubo, Shigeki Sato, Hiroyuki Sakaguchi 他	腫瘍内科	Medullary carcinoma of the pancreas with MLH1 promoter hypermethylation, induced deficient mismatch repair, successfully treated with an immune checkpoint inhibitor.	Frontiers in Oncology 15:1551038 2025 Mar.	Case report
54	Ayano Shima, Moeko Noguchi-Shinohara, Shutaro Shibata 他	脳神経内科	Glucose metabolism and smaller hippocampal volume in elderly people with normal cognitive function	npj aging 10(1):39, 2024 Sep.	Original Article
55	Hiroto Nakano, Sadao Hikishima, Makoto Mori 他	脳神経内科	Globular-shaped A $\beta$ oligomers have diverse mechanisms for promoting A $\beta$ aggregations with the facilitation of fibril elongation	Neurobiology of disease. 205:106775, 2025 Feb.	Original Article
56	Shutaro Shibata, Moeko Noguchi-Shinohara, Ayano Shima 他	脳神経内科	Green tea consumption and cerebral white matter lesions in community-dwelling older adults without dementia	NPJ science of food 9(1):2, 2025 Jan.	Original Article
57	Moeko Noguchi-Shinohara, Yasuhiro Sakashita, Hiroto Nakano 他	脳神経内科	Plasma amyloid- $\beta$ precursor protein 669-711/amyloid- $\beta$ 1-42 ratio is associated with cognition in Alzheimer's disease	The journal of prevention of Alzheimer's disease 12(1):100003, 2025 Jan.	Letter
58	Daiki Muramatsu, Takahiro Watanabe-Nakayama, Mayumi Tsuji 他	脳神経内科	ALZ-801 prevents amyloid $\beta$ -protein assembly and reduces cytotoxicity: A preclinical experimental study	FASEB journal : official publication of the Federation of American Societies for Experimental Biology. 39(3):e70382, 2025 Feb.	Original Article
59	Yufan Bian, Rika Kawabata, John F Enwright 他	神経科精神科	Expression of activity-regulated transcripts in pyramidal neurons across the cortical visuospatial working memory network in unaffected comparison individuals and individuals with schizophrenia.	Psychiatry Research 2024 Sep:339:116084.	Original Article
60	Kameya M, Hirosawa T, Soma D	神経科精神科	Relationships between peak alpha frequency, age, and autistic traits in young children with and without autism spectrum disorder.	Front Psychiatry. 2024 Aug 30;15:1419815. (オンライン)	Original Article
61	Takeshi Okuda, Kimoto Sohei, Kawabata Rika 他	神経科精神科	Alteration in Inhibitory Neuron Subtype-Selective Transcripts in the Prefrontal Cortex: Comparisons across Schizophrenia and Mood Disorders	Psychological medicine 2024 Oct 31;54(14):1-10.	Original Article
62	Miyazawa H, Muraoka M, Matsuda Y 他	小児科	Clinical and molecular significance of flow cytometric analysis for reactive oxygen species production and residual p67phox expression in p67phox-deficient chronic granulomatous disease.	Scand J Immunol. 2024 Jul;100(1):e13372.	Original Article
63	Yokoyama T, Inoue N, Sakumura N 他	小児科	An Adolescent Case of Anti-MDA5 Antibody-Positive Juvenile Dermatomyositis With Interstitial Lung Disease Successfully Treated by Multitarget Therapy Avoiding Cyclophosphamide: A Case Report and Literature Review.	Cureus. 2024 Jun 15;16(6):e62425.	Case report

64	Nakamura T, Iwasaki H, Miyazawa H 他	小児科	Usefulness of deep sedation with intravenous dexmedetomidine and midazolam in cardiac catheterization procedures for pediatric patients. Front Pediatr.	Front Pediatr. 2024 Aug 15;12:1338130.	Original Article
65	Miyazawa H, Matsuda Y, Shirahashi T 他	小児科	Autosomal dominant TCF3 deficiency with absent B cells and a unique immunoglobulin profile.	Pediatr Allergy Immunol. 2024 Sep;35(9):e14246.	Case report
66	Yokoyama T, Mimura T, Tanaka H 他	小児科	Thrombotic thrombocytopenic purpura with juvenile systemic lupus erythematosus: successful treatment with caplacizumab and rituximab.	Pediatr Rheumatol Online J. 2024 Dec 18;22(1):106.	Case report
67	Takayuki Sakurai , Tetsuo Saito , Kohsei Yamaguchi, et al.	放射線科	Predicting the survival of patients with painful tumours treated with palliative radiotherapy: a secondary analysis using the 3-variable number-of-risk-factors model.	Radiat Oncol. 2024 Oct 1;19(1):133.	Original Article
68	Takahiro Komori, Norihide Yoneda, Kazuto Kozaka, et al.	放射線科	Two cases of perivenous hepatic iron deposition in the background of alcoholic liver cirrhosis	Abdom Radiol (NY) . 2025 Apr;50(4):1600–1605. doi: 10.1007/s00261–024–04624–x. Epub 2024 Oct 12.	Case report
69	Akihito Okubo, Sae Matsumoto, Hiroyasu Tamamura, et al.	放射線科	Respiratory-gated proton beam therapy for intrahepatic cholangiocarcinoma without fiducial markers.	Radiat Oncol. 2024 Nov 13;19(1):160.	Original Article
70	Tomohiro Kobayashi, Kazuto Kozaka, Takashi Matsubara, et al.	放射線科	Super delayed phase imaging in gadoxetic acid-enhanced MRI: investigating factors contributing to improved liver contrast.	Eur Radiol . 2025 Jun;35(6):3195–3205. doi: 10.1007/s00330–024–11227–z. Epub 2024 Nov 29.	Original Article
71	Kenichiro Okumura, Takahiro Ogi, Junichi Matsumoto, et al.	放射線科	Hepatic artery stenting with Viabahn	CVIR Endovasc . 2024 Dec 19;7(1):90. doi: 10.1186/s42155–024–00507–w.	Original Article
72	Fushida N, Maruyama M, Shimizu K 他	皮膚科	A case of mucosal membrane pemphigoid of the oral lichen type	Eur J Dermatol 34(4):438–440,2024 Aug.	Case report
73	Matsumoto S, Hamaguchi Y, Kitano T 他	皮膚科	A case of dermatomyositis with positivity to both anti-MDA5 and anti-ARS antibodies	Eur J Dermatol 34(4):444–446,2024 Aug.	Case report
74	Maeda S, Imazaki K, Shimizu K 他	皮膚科	BRAF/MEK inhibitor-induced tumor lysis syndrome in a patient with malignant melanoma	J Dermatol 52(3):e242–e243,2025 Mar.	Letter
75	Kimura A, Hamaguchi Y, Matsushita T	皮膚科	Dermatitis Herpetiformis Duhring	JMA J 7(4):635–367,2024 Oct.	Case report
76	Iino K, Yamamoto Y, Ueda H, Takemura H.	心臓血管外科	Left ventricular unloading therapy using Impella 5.5 after emergency surgery for acute myocardial infarction mechanical complication: a case report	J Cardiothorac Surg. 2024 Jun 26;19(1):381.	Case report

77	Yamamoto Y, Iino K, Kitazawa M, Nakahara M, Nakabori H, Ueda H, Yamada Y, Murata A, Takemura H.	心臟血管外科	Fibrin-associated diffuse large B-cell lymphoma in the aortic valve and ascending aorta	J Cardiol Cases. 2024 Jun 15;30(3):94–96.	Case report
78	Sakai A, Ueda H, Nakabori H, Iino K, Takemura H.	心臟血管外科	Giant iliac vein aneurysm secondary to traumatic arteriovenous fistula	Eur Heart J Imaging Methods Pract. 2024 Dec 4;2(3):qyae126.	Case report
79	Sakai A, Iino K, Yamamoto Y, Takemura H.	心臟血管外科	A successful post-surgical treatment of cardiogenic shock using Impella via brachiocephalic artery	Interdiscip Cardiovasc Thorac Surg. 2024 Dec 3;39(6):ivae202.	Case report
80	Sakai A, Iino K, Ueda H, Yamamoto Y, Takemura H.	心臟血管外科	Successful treatment of cardiac dysfunction due to left main trunk obstruction and severe acute aortic regurgitation secondary to acute type A aortic dissection using Impella: a case report	J Cardiothorac Surg. 2024 Dec 31;19(1):695.	Case report
81	Munehisa Takata, Yusuke Tanaka, Daisuke Saito, et al.	呼吸器外科	Hyperacute experimental model of rat lung transplantation using a coronary shunt cannula	World J Transplant 2024 June 18; 14(2): 92137	Original Article
82	Tsuji T, Inaki N, Takenaka S 他	消化管外科	Initial 12 Cases of Robot-Assisted Gastrectomy for Gastric Cancer Using the Hinotori Surgical Robot System: Tips for the Efficient Introduction of a New Surgical Robot	J Laparoendosc Adv Surg Tech A.34(5):393–400.2024.05	Original Article
83	Takenaka S, Tsuji T, Doden K,他	消化管外科	Advanced esophagogastric junction mixed neuroendocrine–non–neuroendocrine neoplasm with long-term recurrence–free survival	Surg Case Rep.10(1):217.2024.09	Case report
84	Hayashi K, Passera R, Meroni C 他	消化管外科	Complete mesocolic excision (CME) impacts survival only for Stage III right-sided colon cancer: a systematic review and meta-analysis	Minim Invasive Ther Allied Technol.33(6):323–333.2024.12	Review
85	Hayashi S, Tsuji T, Tanaka H 他	消化管外科	Percutaneous endoscopic intragastric surgery for gastricmetastases of renal cell carcinoma: A case report	Asian J Endosc Surg.17(4):e13389.2024.10	Case report
86	Kinoshita J, Doden K, Sakimura Y 他	消化管外科	Crosstalk Between Omental Adipose-Derived Stem Cells and Gastric Cancer Cells Regulates Cancer Stemness and Chemotherapy Resistance	Cancers (Basel).16(24):4275. 2024.12	Original Article
87	Katano K, Nakanuma S, Tokoro T, 他	肝胆膵・移植外科	Impact of aging on peribiliary glands in ischemia–reperfusion injury	J Hepatobiliary Pancreat Sci.31(10):705–715..2024.10	Original Article
88	Katano K, Nakanuma S, Araki T, 他	肝胆膵・移植外科	Predictors of portal vein thrombosis after simultaneous hepatectomy and splenectomy: A single-center retrospective study.	Asian J Surg.47(12):5137–5142.2024.12	Original Article
89	Nakanuma S, Ogi T, Sugita H, 他	肝胆膵・移植外科	Impact of aging on hepatic reserve after preoperative portal vein embolization in hepatectomy for perihilar cholangiocarcinoma	Asian J Surg.S1015–9584(24)02485–0.Online ahead of print.	Original Article

90	Takaaki Ohmori, Andrew Frava, William J Hozack	整形外科	Ten Year Experience With Same Day Discharge Outpatient Total Hip Arthroplasty: Patient Demographics Changed, but Safe Outcomes Were Maintained	The Journal of arthroplasty. 2024 Sep;39(9):2311–2315.	Original Article
91	Shinji Miwa, Norio Yamamoto N, Katsuhiro Hayashi 他	整形外科	Development and validation of a nomogram to predict surgical site infection after soft–tissue sarcoma resection	Bone and Joint Journal 106–B(5):492–500, 2024 May.	Original Article
92	Sei Morinaga, Norio Yamamoto, Katsuhiro Hayashi 他	整形外科	Clinical features of patients with carcinoma soft tissue metastases as surgical indications: a retrospective cohort study	BMC Cancer24(1): 577, 2024 May	Original Article
93	Shinji Miwa, Katsuhiro Hayashi, Yuta Taniguchi 他	整形外科	What are the Optimal Systemic Treatment Options for Rhabdomyosarcoma?	Current Treatment Options in Oncology 25(6):784–797, 2024 May.	Review
94	Sei Morinaga, Qinhong Han, Kohei Mizuta 他	整形外科	DNA–Binding Agent Trabectedin Combined With Recombinant Methioninase Is Synergistic to Decrease Fibrosarcoma Cell Viability and Induce Nuclear Fragmentation But Not Synergistic on Normal Fibroblasts	Anticancer Research 44(6): 2359–2367, 2024 Jun	Original Article
95	Shinji Miwa, Katsuhiro Hayashi, Satoru Demura	整形外科	Pathology, Diagnosis, and Management of Sarcoma	International Journal of Molecular Sciences 25(12):6609, 2024 June.	Review
96	Sei Morinaga, Qinhong Han, Kohei Mizuta 他	整形外科	Recombinant Methioninase Is Selectively Synergistic With Doxorubicin Against Wild–type Fibrosarcoma Cells Compared to Normal Cells and Overcomes Highly–Doxorubicin–resistant Fibrosarcoma	Anticancer Research 44(8): 3261–3268, 2024 Aug	Original Article
97	Sei Morinaga, Qinhong Han, Kohei Mizuta 他	整形外科	Overcoming High Trabectedin Resistance of Soft–tissue Sarcoma With Recombinant Methioninase: A Potential Solution of a Recalcitrant Clinical Problem	Anticancer Research 44(9): 3785–3791, 2024 Sep	Original Article
98	Sei Morinaga, Qinhong Han, Kohei Mizuta 他	整形外科	Recombinant Methioninase Increases Eribulin Efficacy 16–fold in Highly Eribulin–resistant HT1080 Fibrosarcoma Cells, Demonstrating Potential to Overcome the Clinical Challenge of Drug–resistant Soft–tissue Sarcoma	Anticancer Research 44(9):3777–3783, 2024 Sep.	Original Article
99	Sei Morinaga, Norio Yamamoto, Kensuke Yamauchi 他	整形外科	The Role of Microsurgery and Fluorescent–reporter Genes in Establishing Mouse Models for Real–Time Imaging of Metastatic Cancer–Cell Trafficking and Colony Formation: A Revolutionary and Disruptive Technology for Metastasis Research	Cancer Diagnosis Prognosis 4(5): 544–557, 2024 Sep	Review
100	Yoshitomo Saiki, Tamon Kabata, Yoshitomo Kajino 他	整形外科	Artificial Intelligence–Based Surgery Support Model Using Intraoperative Radiographs for Assessing the Acetabular Component Angle.	The Journal of arthroplasty. 2025 Mar;40(3):693–699.	Original Article
101	Kato S, Yokogawa N, Shimizu T 他	整形外科	Posterior Column Reconstruction of the Lumbar Spine Using En Bloc Resected Vertebral Arch in Spinal Tumor and Deformity Surgeries	Spine Surgery and Related Research. 2024 Jun 10;8(5):534–539.	Original Article
102	Sei Morinaga, Qinhong Han, Kohei Mizuta 他	整形外科	Extensive DNA Damage and Loss of Cell Viability Occur Synergistically With the Combination of Recombinant Methioninase and Paclitaxel on Pancreatic Cancer Cells which Report DNA–Damage Response in Real Time	Cancer Genomics Proteomics 21(6): 585–590, 2024 Nov–Dec	Original Article

103	Sei Morinaga, Qinhong Han, Kohei Mizuta 他	整形外科	Recombinant Methioninase Synergistically Reverses High-docetaxel Resistance Developed in Osteosarcoma Cells	Anticancer Research 44(11): 4773–4778, 2024 Nov	Original Article
104	Sei Morinaga, Ming Zhao, Kohei Mizuta 他	整形外科	Accurate and Safe Tumor Targeting of Orally-administered Salmonella typhimurium A1-R Leads to Regression of an Aggressive Fibrosarcoma in Nude Mice	In Vivo 38(6): 2601–2609, 2024 Nov–Dec	Original Article
105	Daisuke Inoue, Tamon Kabata, Yu Yanagi 他	整形外科	Do elevated preoperative serum inflammatory markers influence surgical site or periprosthetic joint infections following primary total hip arthroplasty?	Journal of orthopaedic science. 2024 Nov 28:S0949–2658(24)00257–4.	Original Article
106	Sei Morinaga, Qinhong Han, Kohei Mizuta 他	整形外科	Selective Synergy of Recombinant Methioninase Plus Docetaxel Against Docetaxel-resistant and -sensitive Fibrosarcoma Cells Compared to Normal Fibroblasts	Anticancer Research 44(12):5207–5213, 2024 Dec.	Original Article
107	Daisuke Inoue, Tamon Kabata, Yoshitomo Kajino 他	整形外科	Is the natural course of perioperative laboratory testing effective in identifying wound-related complications following primary total hip arthroplasty?	Archives of orthopaedic and trauma surgery. 2024 Dec 21;145(1):75.	Original Article
108	Sei Morinaga, Qinhong Han, Kohei Mizuta 他	整形外科	Ivermectin Combined With Recombinant Methioninase (rMETase) Synergistically Eradicates MiaPaCa-2 Pancreatic Cancer Cells	Anticancer Research 45(1): 97–103, 2025 Jan	Original Article
109	Sei Morinaga, Ming Zhao, Kohei Mizuta 他	整形外科	The Combination of Tumor-targeting Salmonella typhimurium A1-R Plus the Autophagy-inhibitor Chloroquine Synergistically Eradicates HT1080 Fibrosarcoma Cells In Vitro and In Vivo	In Vivo 39(1): 102–109, 2025 Jan–Feb	Original Article
110	Sei Morinaga, Qinhong Han, Kohei Mizuta 他	整形外科	Synergistic Eradication of Fibrosarcoma With Acquired Ifosfamide Resistance Using Methionine Restriction Combined With Ifosfamide in Nude-mouse Models	In Vivo 39(1): 120–126, 2025 Jan–Feb	Original Article
111	Sei Morinaga, Qinhong Han, Kohei Mizuta 他	整形外科	Complete Response (CR) in a Previously-progressing Chronic Lymphocytic Leukemia (CLL) Patient Treated With Methionine Restriction in Combination With First-line Chemotherapy	Cancer Diagnosis Prognosis 5(1): 21–26, 2025 Jan	Original Article
112	Sei Morinaga, Qinhong Han, Kohei Mizuta 他	整形外科	Elevated-c-MYC-expressing Fibrosarcoma Cells With Acquired Gemcitabine Resistance Remain Sensitive to Recombinant Methioninase: A Potential Clinical Strategy for a Recalcitrant Disease	Cancer Diagnosis Prognosis 5(1): 8–14, 2025 Jan	Original Article
113	Sei Morinaga, Qinhong Han, Kohei Mizuta 他	整形外科	Prostate Cancer Patient With Lymph-node Metastasis Treated Only With Methionine Restriction Has Stable Disease for Two Years Demonstrated With PET/CT and PSMA-PET Scanning and PSA Testing	Cancer Diagnosis Prognosis 5(1): 27–31, 2025 Jan	Case report
114	Sei Morinaga, Qinhong Han, Kohei Mizuta 他	整形外科	Recombinant Methioninase (rMETase) Synergistically Sensitizes Ivermectin-resistant MCF-7 Breast Cancer Cells 9.9 Fold to Low-dose Ivermectin	Anticancer Research 45(2): 451–455, 2025 Feb	Case report
115	Musashi Ima, Tamon Kabata, Daisuke Inoue 他	整形外科	Influence of stem length on sagittal alignment in total hip arthroplasty: a comparison between short and standard stems	BMC musculoskeletal disorders. 2025 Feb 24;26(1):188.	Original Article

116	Sei Morinaga, Qinhong Han, Kohei Mizuta 他	整形外科	Highly Synergistic Eradication of 143B Osteosarcoma Cells In Vitro by the Combination of Recombinant Methioninase, Chloroquine, and Rapamycin Targeting Methionine Addiction, Autophagy, and mTOR, Respectively	Anticancer Research 45(3): 935–941, 2025 Mar	Original Article
117	Kanu Shimokawa, Hidenori Matsubara, Junsuke Nakase 他	整形外科	Osteochondral Autograft Transplantation for Subchondral Insufficiency Fracture of the Metatarsal Head in Middle-Aged and Elderly Patients: A Report of Three Cases	Cureus. 2025 Mar 28;17(3):e81390.	Case report
118	Nohara T, Takimoto A, Shinzawa R,他	泌尿器科	Comprehensive analysis of perioperative hypotension in photodynamic diagnosis-assisted transurethral resection of bladder tumor with 5-aminolevulinic acid	Int J Urol. 2024 Aug;31(8):891–898.	Original Article
119	Nakagawa R, Izumi K, Toriumi R, 他	泌尿器科	Therapeutic efficacy and safety of biweekly administration of enfortumab vedotin for urothelial carcinoma	Jpn J Clin Oncol. 2024 Dec 7;54(12):1329–1335.	Original Article
120	Iwamoto H, Izumi K, Mizokami A.	泌尿器科	Feasibility of androgen-deprivation and radiation therapy with docetaxel for localized high-risk prostate cancer	Transl Androl Urol. 2024 Jul 31;13(7):1324–1326.	Letter
121	Shigehara K, Kato Y, Kawaguchi S,他	泌尿器科	A comparison of the efficacy of dutasteride on reducing lower urinary tract symptoms among patients with small versus large benign prostatic hyperplasia	Curr Urol. 2024 Sep;18(3):199–202.	Original Article
122	Iwamoto H, Hori T, Nakagawa R,他	泌尿器科	Novel Treatment Strategies for Low-Risk Metastatic Castration-Sensitive Prostate Cancer	Cancers (Basel). 2024 Sep 19;16(18):3198.	Original Article
123	Yaegashi H, Izumi K, Makino T, 他	泌尿器科	Microsatellite Instability-High and High Tumor Mutation Burden Frequencies in Urologic Malignancies Off-Label for Immune Checkpoint Inhibitors in Japan: A Retrospective Single-Institutional Cohort	Cureus. 2024 Sep 13;16(9):e69366.	Original Article
124	Shigehara K, Kato Y, Shinzawa R,他	泌尿器科	Testosterone Replacement Therapy Can Improve a Biomarker of Liver Fibrosis in Hypogonadal Men: A Subanalysis of a Prospective Randomized Controlled Study in Japan (EARTH Study)	World J Mens Health. 2024 Oct 14.	Original Article
125	Nakagawa R, Izumi K, Hiratsuka K, 他	泌尿器科	Tumor-associated macrophages promote bladder cancer metastasis through the CCL20-CCR6 axis	Neoplasia. 2025 Feb;60:101103.	Original Article
126	Nakagawa R, Izumi K, Toriumi R, 他	泌尿器科	Comparison of the efficacy of enfortumab vedotin and paclitaxel plus carboplatin in patients with metastatic urothelial carcinoma	Int J Clin Oncol. 2025 Mar;30(3):524–531.	Original Article
127	Tomoyuki Makino, Takayuki Sakurai, Shigeyuki Takamatsu, et al.	泌尿器科	Biochemical response to neoadjuvant hormonal therapy predicts long-term prostate cancer survival outcomes after high-dose-rate brachytherapy with external beam radiotherapy.	Sci Rep. 2025 Feb 11;15(1):5118.	Original Article
128	Hori T, Iwamoto H, Makino T, 他	泌尿器科	Comprehensive Genome Profiling Test in Japanese Patients With Castration-Resistant Prostate Cancer: A Single-Center Retrospective Study	Cureus. 2025 Jan 11;17(1):e77300.	Original Article

129	Kawaguchi S, Shigehara K, Kadono Y, 他	泌尿器科	Effect of androgen deprivation therapy after radical prostatectomy on urinary symptoms	Urologia. 2025 May;92(2):329–334.	Original Article
130	Masayuki Takahira,Hiroshi Goto,Atsushi Azumi	眼科	The 2023 revised diagnostic criteria for IgG4-related ophthalmic disease	Japanese Journal of Ophthalmology.2024 Jul;68(4):293–301.	Original Article
131	Tomomi Higashide,Sachiko Udagawa,Kazuki Nakazawa 他	眼科	Prediction of glaucoma progression by 24-h contact lens sensor profile in patients with normal-tension glaucoma	Scientific reports.2024 Sep;14(1):21564.	Original Article
132	Akira Kobayashi,Takahiko Hayashi,Ami Igarashi 他	眼科	Busin Glide-Assisted Pull-Through Insertion of Artificial Corneal Endothelium (EndoArt)	International Medical Case Reports Journal.2024 Sep;17:795–800.	Original Article
133	Tomomi Higashide,Sachiko Udagawa,Yoko Yamashita 他	眼科	VISUAL ACUITY LOSS AFTER VITRECTOMY FOR EPIRETINAL MEMBRANE IN EYES WITH GLAUCOMA	Retina(Philadelphia,Pa.). 2025 Feb;45(2):247–256.	Original Article
134	Uno D, Endo K, Yoshikawa T, et	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Correlation between gene mutations and clinical characteristics in papillary thyroid cancer: a retrospective analysis of BRAF mutations and RET rearrangements	Thyroid Research /16;17(1):21. 2024 Sep	Original Article
135	Endo K, Ichinose M, Kobayashi E, et	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Head and Neck Cancer and Sarcopenia: An Integrative Clinical and Functional Review	Cancers(Basel) / 12;16(20):3460. 2024 Oct	Review
136	Sugimoto H, Tamori A, Hatano M, et	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Myringoplasty: A comparison of inlay and underlay techniques	Journal of Otology /19(2):72–76. 2024 Apr	Original Article
137	Inaba M, Sugimoto H, Yoshizaki T,et	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Affinity purification of the outer hair cell motor protein prestin using His-tag.	Auris Nasus Larynx/ 52(1):12–19. 2025 Feb	Original Article
138	Ohshima H, Kobayashi E, Inaba M, et	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	HRAS Mutations in Head and Neck Carcinomas in Japanese Patients: Clinical Significance, Prognosis, and Therapeutic Potential.	Int J Mol Sci/ 27;26(7):3093. 2025 Mar	Original Article
139	Takashi Iizuka, Kotaro Yoshida, Rena Yamazaki, Ayumi Matsuoka, Hiroshi Fujiwara	産科婦人科	Diagnostic utility of contrast-enhanced computed tomography for ectopic pregnancy	Int J Gynaecol Obstet. 2024 Oct;167(1):395–402	Original Article
140	Kayo Kayahashi, Mahadi Hasan, Anowara Khatun, et al.	産科婦人科	Androgen-responsive FOXP4 is a target for endometrial carcinoma.	Communications biology 7(1): 740, 2024 Jun 18.	Original Article
141	Yasuo Sasagawa, Shingo Tanaka, Masashi Kinoshita	脳神経外科	Endoscopic and exoscopic surgery for brain tumors	Int J Clin Oncol. 2024 Oct;29(10):1399–1406.	Review



142	Kosuke Nambu, Masashi Kinoshita, Yasunori Sato 他	脳神経外科	Systemic Candida abscess after hypofractionated radiotherapy with temozolomide for glioblastoma in an older patient: illustrative case	Journal of Neurosurgery: Case Lessons. 2024 Jul (Online)	Case report
143	Daisuke Wajima, Tomoya Kamide, Yasuo Sasagawa 他	脳神経外科	Endoscopic third ventriculostomy for hydrocephalus accompanied by dural arteriovenous fistulae: a case report and literature review.	Acta Neurochir (Wien). 2025 Jan 11;167(1):10.	Review
144	Inaki A, Mizokami A, Wakabayashi H 他	核医学診療科	Evaluation of 68Ga-PSMA-11 PET/CT: a Phase 1 clinical study in Japanese patients with primary, recurrent, or suspected recurrent prostate cancer.	Annals of Nuclear Medicine 38(8):587–595, 2024 Aug	Original Article
145	Mori H, Wakabayashi H, Saito S 他	核医学診療科	Evaluating the diagnostic efficacy of whole-body MRI versus 123I-mIBG/131I-mIBG imaging in metastatic pheochromocytoma and paraganglioma.	Scientific Reports 14(1):13828, 2024 Jun 15	Original Article
146	Tomo Hiromasa, Hiroshi Wakabayashi, Satoru Watanabe 他	核医学診療科	Enhancing radioactive iodine (RAI) incorporation in RAI-refractory differentiated thyroid cancer: current insights	European Thyroid Journal 14(2):e240319 , 2025 Mar 24 doi: 10.1530/ETJ-24-0319	Review
147	Kazuhiro Ooi, Kazuhiro Yamamoto, Yutaka Kobayashi 他	歯科口腔外科	Temporomandibular joint degeneration arises spontaneously in STR/ort mice and is prevented by targeted aggrecanase inhibition	Osteoarthritis and Cartilage Open. 7(2):100599, 2025 Mar.	Original Article
148	Takashi Kusayama, Yuta Nagamori, Kazutaka Takeuchi, et al.	救急科	Renal autonomic dynamics in hypertension: how can we evaluate sympathetic activity for renal denervation?	Hypertens Research 47(10):2685–2692. 2024 Oct.	Original Article
149	Tadayuki Hirai,Masaki Okajima, Toru Noda,Yoshikazu Goto	救急科	Aortoesophageal fistula with hemorrhagic shock successfully treated with resuscitative endovascular balloon occlusion of the aorta	Int J Emerg Med. 2024 Sep 6;17(1):117.	Case report
150	Tadayuki Hirai,Takuto Hamaoka,Hisayoshi Muri,et al.	救急科	The relationship between muscle sympathetic nerve activity and serum fatty acid binding protein 4 at rest and during isometric handgrip exercise	Physiological Reports 12(24):e70122. 2024 Dec.	Original Article
151	Yusuke Nakade, Masashi Kinoshita, Mitsutoshi Nakada, et al.	検査部	Urinary D-asparagine level is decreased by the presence of glioblastoma	Acta Neuropathol Commun 20;12(1):122,2024 Aug.	Original Article
152	Takeo Yuno, Yusuke Nakade, Mitsutoshi Nakada, et al.	検査部	Predicting Postoperative Motor Function After Brain Tumor Resection With Motor Evoked Potential Monitoring Using Decision Tree Analysis	Cureus 16(11):e7415, .2024 Nov.	Original Article
153	Yusuke Nakade, Yasunori Iwata, Kenichi Harada, et al.	検査部	Effect of D-amino acid metabolic enzyme deficiency on cancer development–diffuse large B-cell lymphoma onset and gene expression analyses in DASPO–knockout mice	Amino Acids 24;57(1):4,2024 Dec.	Original Article
154	Takaya Watabe, Ryota Muramatsu, Takuya Sengoku, et al.	リハビリテーション部	Safety and Efficacy of Early Rehabilitation With Assistance From a Single-Joint Hybrid Assistive Limb in Patients With Total Knee Arthroplasty: A Randomized Controlled Clinical Pilot Study	Cureus 16(4):e57738. (オンライン)	Original Article

155	Ikufumi Takahashi, Keisuke Takeda, Tadashi Toyama, et al.	リハビリテーション部	Histological and immunohistochemical analyses of articular cartilage during onset and progression of preand early-stage osteoarthritis in a rodent model	Scientific Reports. 2024;14:10568 (online)	Original Article
156	Yushin Mizuno, Yasushi Takata, Kazuaki Yoshioka, et al	リハビリテーション部	Collagen-Type Composition in the Semitendinosus, Quadriceps, and Patellar Tendons of a 22-Year-Old Patient: A Case Report.	Cureus 16(5):e61324(オンライン)	Case report
157	Takuya Sengoku, Yasushi Takata, Yushin Mizuno, et al.	リハビリテーション部	Knee flexor strength at 6 months after anterior cruciate ligament reconstruction using hamstring tendon can be predicted from that at 3 months	Knee surgery, sports traumatology, arthroscopy. 2024 Sep;32(9):2474-2483.	Original Article
158	Yushin Mizuno, Yasushi Takata, Kazuaki Yoshioka, et al	リハビリテーション部	One-Year Changes in Collagen Type in Semitendinosus Tendons: A Case Study Using Tissues Obtained From a Growing Patient.	Cureus 16(8):e67564(オンライン)	Case report
159	Yushin Mizuno, Yasushi Takata, Yosuke Shima, et al	リハビリテーション部	Relationship between ultrasonographic findings and subscales of the Knee Injury and Osteoarthritis Outcome Score in patients with early knee osteoarthritis: a multicenter study.	Journal of Medical Ultrasonics 52(1):139-148	Original Article
160	Takuya Sengoku, Yasushi Takata, Rikuto Yoshimizu, et al.	リハビリテーション部	Preoperative Psychological Competitive Ability Is Associated With Emotional States Six Months After Anterior Cruciate Ligament Reconstruction With Hamstring Autograft: A Prospective Study.	Cureus. 2024 Sep;16(9):e69099(オンライン)	Original Article
161	Yushin Mizuno, Junsuke Nakase, Tatsuya Ishikawa, et al	リハビリテーション部	Cross-sectional area on magnetic resonance images of the semitendinosus tendon is strongly related to the collagen fibril diameter.	Journal of Experimental Orthopaedics 12(1):e70124 (オンライン)	Original Article
162	Takaya Watabe, Takuya Sengoku, Goro Sakurai, et al.	リハビリテーション部	Knee injury and osteoarthritis outcome score and knee society score for the minimal clinically important differences after cruciate-retaining total knee arthroplasty: Two-year follow up	Knee, 53, 176-182, 2025	Original Article
163	Takaya Watabe, Takuya Sengoku, Goro Sakurai, et al.	リハビリテーション部	Association of Physical Function, Quantity, and Quality of the Quadriceps with Postoperative Physical Activity Before Total Knee Arthroplasty	Journal of Clinical Medicine. 14(1), 294, 2025(オンライン)	Original Article
164	Koji Sato, Junji Genda, Seiki Deguchi 他	集中治療部	A hands-free wearable electrolarynx for communication in tracheostomized mechanically ventilated critically ill patients: a case series	Jounal of Anesthesia 2025 Mar (オンライン)	Case report
165	Satomi Kasashima , Yasushi Matsumoto , Atsuhiko Kawashima 他	病理部	Clinicopathological features of immunoglobulin G4-related constrictive pericarditis	Cardiovasc Pathol 2024 Sep-Oct;72107665	Original Article
166	Maki Sakaguchi , Masafumi Horie , Yukinobu Ito 他	病理部	Comprehensive genomic analysis reveals clonal orijin and subtype-specific evolution in a case of sporadic multiple meningiomas	Brain Tumor Pathol.2024 Oct;41(3-4):132-138	Case report
167	Masafumi Horie , Yoshiyuki Akiyama , Hiroto Katoh 他	病理部	APRIL/BAFF upregulation is associated with clonal B-cell expansion in Hunner-type interstitial cystitis	J Pathol.2024 Dec;264(4):383-395	Original Article

168	Tatsuya Mori , Keishi Mizuguchi , Chie Shimaguchi 他	病理部	A Case of Epithelioid Angiosarcoma Diagnosed From Gross Examination of a Pulmonary Tumor Utilizing Imprint Cytology and immunocytochemistry0	Cancer Rep(Hoboken).2024 Oct;7(10):e70014	Case report
169	Megumi Oshima , Tadashi Toyama , Tatsuhiko Toyama 他	感染制御部	Effects of d-alanine Intake on Amino Acid Metabolism and Kidney Function in Healthy Adults: A Multicenter, Randomized Pilot Study.	Curr Dev Nutr. 8(7):103787, 2024 May.	Original Article
170	Zaimoku Y, Sakai K, Tsuji N, Hosomichi K, Yamada S, Tran DC, Kobayashi M, Sugiyama A, Hirayasu K, Mizumaki H, Ishiyama K, Hanayama R, Tomiyama Y, Nakao S.	感染制御部	Haematopoietic regeneration by HLA-A*0206-deficient clones in severe aplastic anaemia without definitive immunosuppressive treatment	Br J Haematol 2024 Nov;205(5):1995-1999.	Original Article
171	Kitaya S, Nakano M, Katori Y 他	感染制御部	QTc Interval Prolongation as an Adverse Event of Azole Antifungal Drugs: Case Report and Literature Review.	Microorganisms. 2024 Aug 8;12(8):1619.	Review
172	Kitaya S, Iyobe R, Kanamori H	感染制御部	Disseminated Herpes Zoster in an Immunocompromised Patient: Challenges for Preventing Transmission Before Diagnosis.	Am J Med. 2025 Feb;138(2):e9-e10.	Case report
173	Kitaya S, Yoshinobu T, Kanamori H	感染制御部	Esophagitis in an immunocompetent patient: A diagnostic challenge.	Eur J Intern Med. 2025 Feb;132:129-130.	
174	Kitaya S, Takei K, Honda Y 他	感染制御部	Enhanced Effect of Patient Room Disinfection Against Carbapenem-Resistant Enterobacter cloacae and Methicillin-Resistant Staphylococcus aureus Using UV-C Irradiation in Conjunction with UV-C Containment Unit.	Antibiotics (Basel). 2024 Nov 22;13(12):1115.	
175	Satoshi Mizuno, Shintaro Gake, Makiko Takabayashi 他	薬剤部	Effect of obesity on pharmacokinetics of transdermal fentanyl: Single-center retrospective study and animal study	Drug Metabolism and Pharmacokinetics 60:101035, 2025 Feb.	Original Article
176	Satoshi Mizuno, Makiko Takabayashi, Hiroko Makihara 他	薬剤部	Effect of changes in skin properties due to diabetes mellitus on the titration period of transdermal fentanyl: single-center retrospective study and diabetic animal model study	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 10(1):80, 2024 Dec.	Original Article
～					

計176件

(注) 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					

～					
---	--	--	--	--	--

計0件

(注) 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 手順書の主な内容  審査対象に関する事項、委員会の組織に関する事項、委員会の会議に関する事項、申請手続き及び結果の報告に関する事項、疑義申立てに関する事項、迅速審査に関する事項、実施状況の調査等に関する事項、資料の入手に関する事項、委員会の運営に関する事項、記録の保存に関する事項	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 規定の主な内容  委員会の目的及び職務に関する事項、委員会の組織及び組織運営に関する事項	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年7回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年9回
・ 研修の主な内容  臨床研究の研究責任者、研究分担者その他の研究の実施に携わる者又は今後研究の実施に携わ	

る予定の者を対象に、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に関する事項、研究デザインに関する事項、臨床研究の品質保証に関する事項、その他生命科学・医学系研究の実施に当たり必要となる知識・技術等に関連する事項について講習会を実施。

(注) 前年度の実績を記載すること。

## (様式第 4)

## 高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

## 1 研修の内容

各専門研修プログラムに沿って各診療科に所属し、大学病院及び連携病院を循環しながら修練を行い、それぞれの専門医、あるいは認定医の資格取得を目指します。

また、診療技術の習得だけでなく臨床研究も行う事が可能である。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

## 2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	133人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

## 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
山下 太郎	消化器内科	科長	30年	
篁 俊成	内分泌・代謝内科	科長	37年	
岩田 恭宜	腎臓・リウマチ膠原病内科	科長	25年	
矢野 聖二	呼吸器内科	科長	35年	
高村 雅之	循環器内科	科長	32年	
宮本 敏浩	血液内科	科長	35年	
谷口 博昭	腫瘍内科	科長	25年	
小野 賢二郎	脳神経内科	科長	28年	
菊知 充	神経科精神科	科長	31年	
和田 泰三	小児科	科長	33年	
小林 聡	放射線科	科長	35年	
高松 繁行	放射線治療科	科長	24年	
松下 貴史	皮膚科	科長	26年	
小室 明人	形成外科	科長	27年	
飯野 賢治	心臓血管外科	科長	25年	
松本 勲	呼吸器外科	科長	34年	
稲木 紀幸	消化管外科	科長	28年	
八木 真太郎	肝胆膵・移植外科	科長	28年	
寺川 裕史	乳腺外科	科長	17年	
酒井 清祥	小児外科	科長	23年	
出村 諭	整形外科	科長	30年	
溝上 敦	泌尿器科	科長	38年	
東出 朋巳	眼科	科長	35年	
杉本 寿史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	科長	28年	
安彦 郁	産科婦人科	科長	25年	
谷口 巧	麻酔科蘇生科	科長	34年	
中田 光俊	脳神経外科	科長	31年	
絹谷 清剛	核医学診療科	科長	39年	
野村 英樹	総合診療科	科長	37年	
八幡 徹太郎	リハビリテーション科	科長	33年	
岡島 正樹	救急科	科長	29年	
池田 博子	病理診断科	科長	23年	
金森 肇	感染症科	科長	22年	
谷口 巧	集中治療部	部長	34年	
谷口 博昭	がんセンター	センター長	25年	
川尻 秀一	歯科口腔外科	科長	37年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>新規採用職員オリエンテーション（各所属部署での配付資料・動画視聴を用いた学習実施）として、新規採用職員に対し本院職員として職務遂行に必要な知識及び心構え等の基本的な事項を習得させ、資質向上と業務効率の増進を図ることを目的とする。</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>令和6年4月1日（月）～4月26日（金）</p> <p>・研修の参加人数</p> <p>104名（うち、医師・歯科医師以外の者は66名）</p>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>1. 情報セキュリティe-ラーニング研修</p> <p>2. 「個人情報の適切な管理」に関する研修</p> <p>3. 「法人文書の適切な管理」に関する研修</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>1. 令和6年 4月22日（月）～ 6月30日（日）</p> <p>2. 令和6年 7月11日（木）～ 9月30日（月）</p> <p>3. 令和6年10月18日（金）～12月20日（金）</p> <p>・研修の参加人数</p> <p>1. 1,722名</p> <p>2. 1,610名</p> <p>3. 1,347名</p>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<p>・研修の主な内容</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>・研修の参加人数</p>

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。



## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 吉崎 智一	
管理担当者氏名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営企画部長 長瀬 啓介</li> <li>・医療安全管理部長 山崎 宏人</li> <li>・ME機器管理センター長 谷口 巧</li> <li>・看護部長 辻 千芽</li> <li>・薬剤部長 崔 吉道</li> <li>・放射線部長 小林 聡</li> <li>・病院部長 元谷内 洋志</li> <li>・総務課長 西尾 都代子</li> <li>・経営管理課長 畠中 丈志</li> <li>・医事課長 山田 浩美</li> </ul>	

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医事課
		各科診療日誌	医事課
		処方せん	薬剤部
		手術記録	医事課
		看護記録	看護部、医事課
		検査所見記録	医事課
		エックス線写真	医事課
		紹介状	医事課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医事課
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	経営管理課、医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課、経営管理課 医薬保健系事務部
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部、医事課	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部、医事課	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部 医事課	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	経営管理課、ME機器管理センター、放射線部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	経営管理課	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	経営管理課	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部、医事課
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	総務課
		医療安全管理部門の設置状況	総務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課
		監査委員会の設置状況	総務課、医事課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課、医事課
		職員研修の実施状況	医事課、総務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務部
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務部

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職員ひとりひとりが安全に関する認識を高め、医療事故防止に積極的に取り組むと同時に、病院全体としても組織的に医療に係る安全管理事故防止に取り組む、医療事故等の未然の防止を目指す。</li> <li>2. 医療安全管理委員会、医療安全管理部、医療安全管理者、リスクマネージャー等による医療安全管理体制を整備し、病院全体として医療事故防止及び医療全体の向上に努める。</li> <li>3. 医療安全管理のための研修を企画し、病院職員全体が2回以上受講できるようにする。</li> <li>4. 「医療事故防止マニュアル」の作成、医療事故等の報告事例の検討など、医療安全の確保を目的とした改善方策を実施する。</li> <li>5. 医療事故が発生した場合にはおいては、「医療安全管理マニュアル」に沿って対応し、医療上の最善の処置を講ずる。また、患者家族に対して事実を速やかにわかりやすく説明する。</li> <li>6. 患者との信頼関係を築くため、また開かれた医療を推進するため、情報の開示及び提供に積極的に対応していく。</li> <li>7. 医療安全相談窓口を設置し、患者及び家族からの医療安全に関する要望、苦情及び不満を真摯に受け止め、その解決に尽力する。</li> </ol>	
<p>② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p> <p>・ 設置の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 開催状況：年 12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療に係る安全管理対策に関すること。</li> <li>2. 医療事故防止対策に関すること。</li> <li>3. 発生した医療事故等の原因の調査及び分析に関すること。</li> <li>4. 分析結果を活用した改善策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること。</li> <li>5. 改善策の実施状況の調査及び当該方策の見直しに関すること。</li> <li>6. 患者が死亡若しくは死産した場合及び濃厚な処置や治療を要した事象が発生した場合の報告の実施状況の確認に関すること。</li> <li>7. 安全管理のための教育及び研修に関すること。</li> <li>8. その他医療に係る安全管理及び医療事故防止に関すること。</li> <li>9. 改善策の実施状況の調査等の目的のため、定期的に関係部署の巡回を行う。</li> </ol>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 4回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>◆対面及びE-learningにて実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 術後疼痛管理チーム～麻酔科医の視点から～/術後に使用する薬剤について/術後の回復過程を支える疼痛管理 (対面開催日2024.7.31、E-learning 2024.8.20-2025.3.31)</li> <li>・ 医療安全管理マニュアル最近の改訂ポイント2024/病棟リエゾン領域の安全管理と対応について (対面開催日2024.11.13、E-learning 2024.11.21-2025.3.31)</li> <li>・ 超音波診断装置と医療安全/超音波診断装置の安全管理～保守点検について～/あなたの力が必要！多職種で関わるポリファーマシー (対面開催日2024.1.17、E-learning 2024.2.7-2024.3.31)</li> </ul> <p>◆対面にて実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療安全の取り組み（業務改善計画）成果発表会（開催日2025.3.6）</li> </ul>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( ☒ 有 ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  - ・ 事故報告等の分析結果を現場へフィードバック
  - ・ 医療従事者の医療事故防止に関する教育
  - ・ 事故防止のための基礎知識の提供
  - ・ 事故報告書等から必要なマニュアルを作成
  - ・ インシデントサマリーに再発防止策を提案
  - ・ 事故防止マニュアルの見直し
  - ・ GRM等による医療現場のラウンド
  - ・ 院内の医療安全ニュースや啓発ポスターの配布
  - ・ 院外の事故情報の提供による注意喚起

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染対策に関する基本的な考</li> <li>2. 院内感染対策のための委員会に関する基本的事項</li> <li>3. 院内のすべての従事者に対する院内感染対策のための研修に関する基本方針</li> <li>4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針</li> <li>6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>7. 抗菌薬の適正使用に関する基本方針</li> <li>8. 院内感染対策の推進のために必要なその他の基本方針</li> </ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染予防の方策及び監視に関すること</li> <li>2. 院内感染対策のガイドラインの策定及びその実施に関すること</li> <li>3. 院内感染についての教育活動に関すること</li> <li>4. 院内感染の調査に関すること</li> <li>5. 感染制御部の運営に必要な事項に関すること</li> </ol> <p>その他院内感染に関して委員会が必要と認める事項</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>◆E-learningにて実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染対策の基本（2024. 5. 10-2025. 3. 31）</li> <li>・ 抗菌薬適正使用マニュアルの改訂/医療関連感染を低減させるための手指衛生多角的戦略の開始（2025. 2. 25-2025. 3. 31）</li> </ul> <p>◆対面及びE-learningにて実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 褥瘡対策研修（医療関連感染予防と手指衛生） （対面開催日2024. 12. 14、E-learning 2025. 1. 29-2025. 3. 31）</li> </ul> <p>その他、新規採用者研修「感染対策の基本」（4月）及び清掃従事者対象の研修（3月）</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染対策マニュアルの整備及び定期的な改訂と従業者への周知</li> <li>2. 全職員を対象とした院内感染対策および抗菌薬適正使用に関する研修の実施</li> <li>3. 保健所及び医師会や地域の保険医療機関と合同での定期的な院内感染対策に関するカンファレンスの開催及び新興感染症の発生を想定とした訓練の実施</li> <li>4. 地域の保険医療機関からの院内感染対策に関する相談対応</li> <li>5. 環境感染及びデバイス、抗菌薬使用状況、薬剤耐性菌検出状況に関するナショナルサーベイランス（JANIS、J-SIPHE）への参加と結果を分析・評価することによる院内感染対策への活用</li> <li>6. 定期的な院内ラウンドによるゾーニングを含めた感染対策実施状況の確認及び指導</li> <li>7. 各部署での感染制御担当者による感染対策実施状況の確認及び指導</li> </ol>	

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>8. 感染管理システムやニュースレターを活用した職員への感染対策および抗菌薬適正使用に関する情報共有</li><li>9. 医療材料・医療器具の洗浄、消毒及び滅菌業務や院内清掃実施状況の確認</li><li>10. 職業感染防止対策のための計画と実施及び実施後の評価</li><li>11. 抗菌薬の使用及び病原微生物分離状況の分析や評価に基づいた抗菌薬適正使用の推進</li></ol> |
|--|

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>令和6年度実施 医療安全研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 術後に使用する薬剤について (実地：令和6年7月31日、e-ラーニング：令和6年8月～令和7年3月)</li> <li>・ あなたの力が必要！多職種で関わるポリファーマシー (実地：令和7年1月8日、e-ラーニング：令和7年1月～3月)</li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 ( <input checked="" type="radio"/>有・無 )</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品の採用</li> <li>2. 医薬品情報の収集・管理・提供</li> <li>3. 医薬品の購入管理</li> <li>4. 外来および入院患者への医薬品の供給</li> <li>5. 病棟における医薬品の管理</li> <li>6. 入院患者への医薬品使用</li> <li>7. ハイリスク薬の取り扱い</li> <li>8. 院内製剤の取り扱い</li> <li>9. 外来患者への情報提供と薬学的指導</li> <li>10. 外来・中央診療施設の薬品管理</li> <li>11. 放射性医薬品の安全管理・安全使用</li> </ol>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( <input checked="" type="radio"/>有・無 )</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 小児多発性硬化症患者におけるナタリズマブの使用について (院内高難度新規医療技術評価委員会にて審議・承認)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 未承認等の医薬品の使用の情報については調剤担当薬剤師や病棟担当薬剤師が処方鑑査で把握する。把握した内容を副薬剤部長が集約し、医薬品安全管理責任者（薬剤部長）に適宜報告する</p>	



とともに、根拠資料（ガイドライン、文献等）を集積・保管する。  
未承認等の医薬品および採用されている医薬品全般の情報については、医薬品情報管理担当薬剤師が添付文書の他、医薬品製造販売業者、行政機関、学術誌等から収集・管理し、必要なものについては当該医薬品を取り扱う医療スタッフに周知する。  
医薬品安全管理責任者は、院内各部署に置く医薬品安全管理主任者（リスクマネジャーが兼務）の立ち会いの下に定期的に院内ラウンドを実施し、医薬品安全使用のための業務の実施状況を確認する。改善が必要と認められる事案についてはこれを指示し、結果を医療安全管理委員会に報告する。また未承認等医薬品の情報等をふまえ、必要に応じて診療科等に注意喚起情報を周知する。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 4 0 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>有効性、安全性に関する事項、使用方法、保守点検に関する事項、不具合等が発生した場合の対応使用に関して特に法令上遵守すべき事項</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 ( <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 )</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>外観チェック、動作チェック、漏れ電流チェック、精度管理、バッテリー性能チェック</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 )</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>定期点検時の点検項目や方法の見直し</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	(有)・無																																
<p>・責任者の資格 (医師) 歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>副病院長（医療安全担当）が医療安全管理責任者として、医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>																																	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) (7名) ・無																																
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況																																	
<p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報管理担当者が PMDA メディナビやメーカーからの情報、文献、新聞等から収集、整理し、緊急度や周知すべき対象等に応じて、院内メールや印刷物の配布を行う。電子カルテシステム内の医薬品情報 web 検索システムや院内業務支援ページより閲覧が可能。また病棟担当者等による病棟勉強会や、院内の医薬品安全管理研修会での周知も定期的に行っている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>病棟担当および調剤担当の薬剤師が処方監査で、また薬剤師が常駐していない診療科等においてはリスクマネジャーが未承認等の医薬品の処方を把握している。対応内容は、担当副薬剤部長に集約し、薬剤部長（医薬品安全管理責任者）に適宜報告するとともに、エクセルファイルと根拠資料（ガイドラインや文献）をファイリングして、事例を集積している。また併用禁忌薬については医薬品情報管理担当者が部門システムを用いて定期的にリストアップし薬剤部長に報告している。今後は、電子カルテに JAPIC データベースを搭載し、病名からもチェックが可能なシステムを準備中である。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有)・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <table border="0"> <tr> <td>(所属：薬剤部</td> <td>、職種</td> <td>薬剤師</td> <td>)</td> <td>(所属：</td> <td></td> <td>、職種</td> <td>)</td> </tr> <tr> <td>(所属：</td> <td></td> <td>、職種</td> <td>)</td> <td>(所属：</td> <td></td> <td>、職種</td> <td>)</td> </tr> <tr> <td>(所属：</td> <td></td> <td>、職種</td> <td>)</td> <td>(所属：</td> <td></td> <td>、職種</td> <td>)</td> </tr> <tr> <td>(所属：</td> <td></td> <td>、職種</td> <td>)</td> <td>(所属：</td> <td></td> <td>、職種</td> <td>)</td> </tr> </table>		(所属：薬剤部	、職種	薬剤師	)	(所属：		、職種	)	(所属：		、職種	)	(所属：		、職種	)	(所属：		、職種	)	(所属：		、職種	)	(所属：		、職種	)	(所属：		、職種	)
(所属：薬剤部	、職種	薬剤師	)	(所属：		、職種	)																										
(所属：		、職種	)	(所属：		、職種	)																										
(所属：		、職種	)	(所属：		、職種	)																										
(所属：		、職種	)	(所属：		、職種	)																										
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有)・無																																
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p> <p>医療安全管理者等による IC 監査を実施した。(年3回)</p> <p>●主な指導内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・標準テンプレートを用いた IC 文書の登録を行うこと</li> <li>・インフォームドコンセントの概要を電子カルテに記録すること</li> </ul>																																	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>各診療科の監査担当医が実施した診療録監査、インフォームドコンセント監査の結果をもとに、診療録等の管理責任者が記載状況及び内容の確認を行った。（年４回）</li> <li>主な指導内容：カンファレンス記録の積極的な記載。</li> </ul>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・所属職員：専従（５）名、専任（２）名、兼任（１２）名 うち医師：専従（１）名、専任（２）名、兼任（４）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（１）名 うち看護師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（４）名 （注）報告書を提出する年度の１０月１日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>医療に係る安全管理対策及び医療事故防止対策の企画・立案及び業務改善計画に関すること。</li> <li>医療安全管理マニュアルの作成等に関すること。</li> <li>安全管理のための教育及び研修の企画・運営に関すること。</li> <li>インシデント報告及び患者の死亡若しくは死産報告の調査・分析に関すること。</li> <li>リスクマネジャーとの連絡調整に関すること。</li> <li>医療事故等に係る診療録及び看護記録等の記載状況の確認・指導に関すること。</li> <li>患者及び家族等への説明等、医療事故発生時の対応状況の確認・指導に関すること。</li> <li>医療事故等に係る原因究明の確認及び指導に関すること。</li> <li>金沢大学附属病院医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成、保存その他当該委員会の事務に関すること。</li> <li>その他医療に係る安全管理対策及び医療事故防止対策に関すること。</li> </ol> 【モニタリングの具体例】 <ul style="list-style-type: none"> <li>入院患者に対する肺血栓塞栓症リスク評価と予防策の実施率</li> <li>注射薬投与時のＰＤＡ認証の実施率</li> <li>ＲＲＴコール報告</li> <li>病理診断レポートの未読/既読状況</li> <li>画像診断レポートの未読/既読状況</li> </ul> ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（８件）、及び許可件数（５件） ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有・無） ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有・無） ・活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>高難度新規医療技術等の提供の適否決定に関すること。</li> <li>高難度新規医療技術等の提供後の確認に関すること。</li> <li>その他高難度新規医療技術等の提供に関すること。</li> </ol> ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有・無） ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有・無）	

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（１件）、及び許可件数（０件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・活動の主な内容：
  1. 高難度新規医療技術等の提供の適否決定に関すること。
  2. 高難度新規医療技術等の提供後の確認に関すること。
  3. その他高難度新規医療技術等の提供に関すること。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 255 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 3,673 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
  1. 医療に係る安全管理対策に関すること。
  2. 医療事故防止対策に関すること。
  3. 発生した医療事故等の原因の調査及び分析に関すること。
  4. 分析結果を活用した改善策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること。
  5. 改善策の実施状況の調査及び当該方策の見直しに関すること。
  6. 患者が死亡若しくは死産した場合及び濃厚な処置や治療を要した事象が発生した場合の報告の実施状況の確認に関すること。
  7. 安全管理のための教育及び研修に関すること。
  8. その他医療に係る安全管理及び医療事故防止に関すること。
  9. 改善策の実施状況の調査等の目的のため、定期的に関係部署の巡回を行う。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（☒有（病院名：山梨大学医学部附属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒有（病院名：山形大学医学部附属病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況
  - ・医療安全管理委員会で審議する事項が多岐に渡っており、一つの事項を深く掘り下げる事が困難である可能性があると思われ、複数の委員会の存在や関連人員の増加によって更なる改善が見込めるかもしれない。
  - ・高難度新規医療技術および医薬品・未承認新規医薬品の体制については、医療安全管理部がほぼ主体となって実施されているため、すべての状況を医療安全管理の面から把握することができ、優れた集約の仕方と思われるが、医療安全管理部の実働の負担がかなり大きくなっているように見受けられる。昨今の働き方改革を踏まえ、継続的な負担の分散を一考していただいても良いのではないかとと思われる。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

医療安全相談窓口においてG R M、事務職員が対応している。窓口活動については院内にポスターを掲示しパンフレットを配置するとともに、ホームページに掲載している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

「医療安全管理マニュアル最近の改訂ポイント」  
(対面開催日 2024. 11. 13、E-learning 2024. 11. 21-2025. 3. 31)

【項目】医療スタッフマニュアル、アドレナリン投与量、転倒転落、手術前薬休、  
レポート未読対策、インシデントレポート、RRT、DNAR、報告書管理体制加算、  
医療安全活動アワード2024、機械式PCAポンプの電池交換、中心静脈穿刺、  
アナフィラキシー発生時の対応

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

公益財団法人日本医療機能評価機構主催の特定機能病院管理者研修に管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全責任者及び医療機器安全管理責任者が参加した。

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

公益財団法人 日本医療機能評価機構による病院機能評価「一般病院3 (3rdG:Ver.2.0)」を受審。認定承認されている  
(認定期間 2020年7月25日 ～ 2025年7月24日、特例措置の適用により認定継続中)

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院WEBサイトに公開している。

・評価を踏まえ講じた措置

2023年3月の再審査で改善の取り組みが一定の水準に達していると判断され、認定された。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基準の主な内容             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人格が高潔で、学識が優れている者</li> <li>2. 医師免許を有している者</li> <li>3. 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者</li> <li>4. 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者</li> <li>5. 金沢大学附属病院の基本理念及び基本方針を確実に遂行できる者</li> </ol> </li> <li>基準に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li> <li>公表の方法             <p>金沢大学附属病院Webサイトに掲載</p> </li> </ul>
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無）</li> <li>選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無）</li> <li>選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無）</li> <li>公表の方法             <p>金沢大学附属病院Webサイトに掲載</p> </li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無		
<p>・ 合議体の主要な審議内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中期目標・中期計画に関する事項</li> <li>2. 規程の制定又は改廃に関する事項</li> <li>3. 予算及び執行並びに決算に関する事項</li> <li>4. 自ら行う点検及び評価に関する事項</li> <li>5. その他管理運営に関する重要事項</li> </ol> <p>・ 審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>金沢大学附属病院運営会議と合同開催する金沢大学附属病院医局長会議において、各診療科の医局長や各中央診療施設等の代表者に審議内容を共有</p> <p>金沢大学附属病院の職員が閲覧できる院内専用サイトに議事要旨を掲載し周知</p> <p>・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 )</p> <p>・ 公表の方法</p> <p>金沢大学附属病院Webサイトに掲載</p> <p>・ 外部有識者からの意見聴取の有無 ( 有 <input checked="" type="radio"/> 無 )</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
吉崎 智一	○	医師	病院長、臨床開発部長、国際臨床研修センター長
山下 太郎		医師	消化器内科長、患者サポートセンター長、肝臓センター長、疾病予防センター長
篁 俊成		医師	内分泌・代謝内科長、糖尿病センター長、内分泌センター長
岩田 恭宜		医師	腎臓・リウマチ膠原病内科長
矢野 聖二		医師	呼吸器内科長
高村 雅之		医師	循環器内科長、ハートセンター長、脳卒中・心臓病等総合支援センター長
宮本 敏浩		医師	血液内科長、輸血部長、造血・免疫細胞療法センター長
谷口 博昭		医師	腫瘍内科長、がんセンター長、がんゲノム医療センター長
野村 英樹		医師	総合診療科長、総合診療部長
小野 賢二郎		医師	脳神経内科長



菊知 充		医師	神経科精神科長、子どものこころの診療科長
和田 泰三		医師	小児科長
小林 聡		医師	放射線科長、放射線部長
高松 繁行		医師	放射線治療科長
松下 貴史		医師	皮膚科長
小室 明人		医師	形成外科長
飯野 賢治		医師	心臓血管外科長
松本 勲		医師	呼吸器外科長、材料部長
稲木 紀幸		医師	消化管外科長、金大病院C P Dセンター長、地域遠隔ロボット支援手術センター長
八木 真太郎		医師	肝胆膵・移植外科長、手術部長、臓器移植センター長、革新的膵がん医療研究開発センター長
寺川 裕史		医師	乳腺外科長
酒井 清祥		医師	小児外科長
出村 諭		医師	整形外科長、脊椎・脊髄外科長
溝上 敦		医師	泌尿器科長
東出 朋巳		医師	眼科長
杉本 寿史		医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科長
安彦 郁		医師	産科婦人科長、周産母子センター長、プレコンセプションケアセンター長
谷口 巧		医師	麻酔科蘇生科長、集中治療部長、麻酔部長、ME機器管理センター長
中田 光俊		医師	脳神経外科長、脳卒中センター長
絹谷 清剛		医師	核医学診療科長、アイソトープ部長
川尻 秀一		歯科医師	歯科口腔外科長
八幡 徹太郎		医師	リハビリテーション科長、リハビリテーション部長
岡島 正樹		医師	救急科長、救急部長、研修医・専門医総合教育センター長
池田 博子		医師	病理診断科長、病理部長
金森 肇		医師	感染症科長、検査部長、感染制御部長
坂井 宣彦		医師	血液浄化療法部長
鷹取 元		医師	内視鏡センター長
薄井 荘一郎		医師	冠動脈疾患治療部長
渡邊 淳		医師	遺伝診療部長、遺伝医療支援センター長
山崎 宏人		医師	医療安全管理部長
森山 秀樹		医師	栄養管理部長
林 智之		医師	小児・成人炎症性腸疾患センター長
大坪 公士郎		医師	外来化学療法センター長
水腰 英四郎		医師	先端医療開発センター長
山田 圭輔		医師	緩和ケアセンター長
川島 博子		医師	乳腺センター長
佐野 滋彦		医師	摂食障害支援センター長
荒木 友希子		臨床心理士・公認心理師	公認心理師実習支援センター長
崔 吉道		薬剤師	薬剤部長
辻 千芽		看護師	看護部長
長瀬 啓介		医師	経営企画部長

元谷内 洋志		事務職員	病院部長
大江 宏康		臨床検査技師	検査部臨床検査技師長
村田 明		医師	ハートセンター特任教授

## 規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（**有**・無）
- ・ 公表の方法  
金沢大学附属病院Webサイトに掲載
- ・ 規程の主な内容  
 病院長は本院を代表し、本院の経営及び管理運営等の業務を総括するとともに、職員等を指揮監督する。  
 病院長の任務は次のとおりとする。
  - (1) 本院の運営、管理及び経営に関すること。
  - (2) 診療部門長、診療科長、中央診療施設の長等の任命に関すること。
  - (3) 診療科及び各中央診療施設等への人員配置に関すること。
  - (4) 病院内組織の設置、廃止及び統合に関すること。
  - (5) 病床、診察室等の配分及び利用形態に関すること。
  - (6) 予算の院内配分に関すること。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割  
 副病院長は、病院長の職務を補佐する。病院長が不在のときは、あらかじめ病院長が指名した副病院長が、その職務を代行する。  
 副病院長は、医療安全、広報・地域医療連携、診療・経営、総務・人事、臨床教育、研究、看護のほか病院長が特に必要と認めた職務を担当する。  
 病院長補佐は、病院長の指示する重要事項について、病院長を補佐する。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
  - 【人事】
    - ・ 病院長は、運営会議の構成員のうちから副病院長を指名する。
    - ・ 病院長補佐は、金沢大学の職員から、病院長が任命する。
  - 【研修】
    - ・ 日本医療機能評価機構が実施する特定機能病院管理者研修を病院長、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者が受講（新任者は受講予定）している。
    - ・ 厚生労働省委託事業のトップマネジメント研修に病院長が参加している。
    - ・ 国立大学病院長会議主催の病院長塾に副病院長2名が参加している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>監査委員会の開催状況：年 2 回</li> <li>活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>医療安全管理責任者，医療安全管理部門，医療安全管理委員会，医薬品安全管理責任者，医療機器安全管理責任者等の業務の状況について附属病院長(以下「病院長」という。)等から報告を求め，又は必要に応じて自ら確認を実施すること。</li> <li>必要に応じ，学長又は病院長に対し，医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること。</li> <li>前 2 号に掲げる業務について，その結果を公表すること。</li> <li>その他医療に係る安全管理の監査に関し必要な事項</li> </ol> </li> <li>監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）</li> <li>委員名簿の公表の有無（有・無）</li> <li>委員の選定理由の公表の有無（有・無）</li> <li>監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無）</li> <li>公表の方法：本院の Web サイトに掲載している。</li> </ul>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
田尻 和人	富山大学附属病院 医療安全管理部	○	医療安全管理部副部長として医療安全に関する業務に従事しているため	有・無	1
麻生 小夜	金沢あおば法律事務所		弁護士として法律に関する専門知識に基づき、業務を行っているため	有・無	1
和田 真由美	血液疾患の患者の会「萌の会」		「萌の会」の代表として活動し、医療を受ける立場から意見を述べるため	有・無	2
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

- 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
- 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1. に掲げる者を除く。）
- その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・ 体制の整備状況及び活動内容  
金沢大学内部監査において業務監査及び会計監査を定期的を実施しており、附属病院も対象となっている。
- ・ 専門部署の設置の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）
- ・ 内部規程の整備の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）
- ・ 内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）
- ・ 公表の方法  
金沢大学附属病院Webサイトに掲載

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 金沢大学経営協議会において、法人の経営に関する重要事項、予算の作成・執行及び決算に関する事項、組織及び運営の状況について自ら行う点検・評価に関する事項等を審議している。病院担当理事及び病院長が構成員となっているほか、病院長から病院の運営状況について説明している。</li> <li>・ 会議体の実施状況（ 年 7 回 ）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無 ）（ 年 7 回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無 ）</li> <li>・ 公表の方法 金沢大学附属病院Webサイトに掲載</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：国立大学法人金沢大学経営協議会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
有松 育子	博報堂 DY ホールディングス 社外取締役 元 国立教育政策研究所 所長 元 文部科学省生涯学習政策局長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
大橋 徹二	コマツ取締役会長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
河田 悌一	一般社団法人 大学基金推進機構 理事長 元 日本私立学校振興・共済事業団 理事長 元 関西大学 学長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
後藤 ひとみ	北海道教育大学 理事（非常勤） 前 愛知教育大学 学長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
里見 進	日本学術振興会 顧問 元 東北大学総長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
新保 博之	金沢市副市長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
武田 泉穂	MVP 株式会社 代表取締役		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
徳田 博	石川県副知事		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
原田 明久	ファイザー株式会社 顧問		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
山内 雅喜	ヤマトホールディングス株式会社 参与		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
渡辺 芳人	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 分子科学研究所 所長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
和田 隆志	金沢大学学長	○	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無
森本 章治	金沢大学理事（総括・大学改革・教育・情報担当）		<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無

滝波 泰	金沢大学理事（総務・財務・施設担当）		有・無
山岸 雅子	金沢大学理事（ダイバーシティ経営担当）		有・無
飯山 宏一	金沢大学融合研究域長		有・無
山本 卓	金沢大学人間社会研究域長		有・無
松本 宏一	金沢大学理工研究域長		有・無
堀 修	金沢大学医薬保健研究域長		有・無
吉崎 智一	金沢大学附属病院長		有・無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の  
情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li><li>・ 通報件数（年〇件）</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li><li>・ 周知の方法 全職員へメールによる周知。電子カルテの掲示板掲載による周知。 金沢大学附属病院業務支援システムに規程を掲載。 医療安全研修による周知。</li></ul>

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画      ②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長      吉崎   智一
閲覧担当者氏名	総務課長   西尾   都代子
閲覧の求めに応じる場所	会議室
閲覧の手続の概要 諸記録の開示(閲覧を含む)を請求する者(以下「開示請求者」)は、国立大学法人金沢大学に対し、法 人文書開示請求書を提出する。 国立大学法人金沢大学は、開示請求があつた日から特別な場合を除き30日以内に開示決定等を行 い、開示請求者に通知する。 開示請求者は、法人文書開示決定通知書を本院へ持参し、閲覧を実施する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は  
現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号  
に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数		延      0      件
閲 覧 者 別	医師	延                  件
	歯科医師	延                  件
	国	延                  件
	地方公共団体	延                  件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。



(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>金沢大学附属病院Webサイトにて病院の基本理念、基本方針、各診療科の案内、統計データ等の情報発信を行っている。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>診療間の連携を推進する、センター、チームを設置している。</p> <p>(ハートセンター、小児・成人炎症性腸疾患センター、緩和ケアセンター、造血・免疫細胞療法センター、糖尿病センター、内分泌センター、がんゲノム医療センター、乳腺センター、遺伝医療支援センター、臓器移植センター、プレコンセプションケアセンター、脳卒中センター、脳卒中・心臓病等総合支援センター、糖尿病透析予防チーム、栄養サポートチーム、緩和ケアチーム、ICU早期離床・リハビリテーションチームなど)</p>	